

# 板 木

群馬県へき地教育研究資料第57集

平成21年3月

群馬県教育委員会  
群馬県へき地教育研究連盟  
群馬県へき地教育振興会

## 序



昭和27年からスタートしましたへき地教育資料「板木」の発行も本年度で第57集を迎えました。へき地教育に関する研究や実践をまとめたこの「板木」は、へき地教育の努力の結晶であり、へき地教育を語る貴重な資料であります。改めてへき地教育の振興に御尽力いただきました多くの方々の御努力に対し、心から敬意と感謝を表したいと思います。

さて、平成18年、約60年ぶりの教育基本法の改正にともない、学校教育法が改正され、新しい義務教育の目標が規定されるとともに、各学校段階の目的・目標規定が改正されました。これを受け、新しい学習指導要領が告示されましたが、今回の改訂においては、これまでの理念を継承しつつ、「生きる力」の育成が目標として掲げられました。

群馬県教育委員会といたしましても、『群馬県「確かな学力」向上計画』（平成19年度～21年度）を策定し、本県の児童生徒の「確かな学力」の向上に取り組んでいるところであります。本計画では、「確かな学力」を向上させるために、「基礎的・基本的な知識・技能の習得」「自ら学び自ら考え行動するなどの思考力・判断力・表現力等の育成」「学ぶ意義の理解や学ぶ意欲の向上」「基本的な生活習慣や学習習慣の確立」の4つの課題に着目し、その充実を目指しております。また、今年3月、国における教育改革の流れを踏まえつつ、教育振興施策を総合的かつ計画的に推進するために「たくましく生きる力をはぐくむ ～ 自ら学び、自ら考える力を～」を基本目標とする群馬県教育振興基本計画を策定し、本県の目指す教育の実現に向けた取組を行っていきたいと考えております。

一方、へき地教育の振興につきましては、昭和29年の「へき地教育振興法」の制定以来、様々な施策を実施してまいりました。今年度も、へき地教育振興会への補助、へき地教育センター運営費及びへき地学校巡回図書費の補助など多くの施策を推進しております。

こうした中、各学校において、恵まれた自然環境を生かした体験的な活動や児童生徒一人一人の個性や可能性を生かしたきめ細かな指導、異学年交流のよさを生かした合同授業など、確かな学力の向上や心の教育の充実などを目指し、へき地の利点や特色を生かした教育活動が実践されていることは非常に意義のあることであり、今後一層へき地教育が重視されるべきものであると考えております。

このように、へき地教育にかかわる先生方の御尽力により、着実にへき地教育の充実が図られていることに感謝申し上げるとともに、今後更に発展するよう、関係市町村教育委員会、県へき地教育振興会、県へき地教育研究連盟と連携して、一層努力していききたいと思います。

最後になりますが、ここに、へき地教育研究資料「板木」第57集の刊行に御尽力された県へき地教育振興会、県へき地教育研究連盟の関係各位に対し敬意を表すとともに、各教育機関等において「板木」が十分に活用されますことを御期待申し上げて序といたします。

平成21年3月

群馬県教育委員会

教育長 福島 金夫

## 「板木」第57集の刊行に寄せて



群馬県へき地教育振興会は、昭和29年「へき地教育振興法」の施行に伴い、本県へき地教育の諸条件の整備・充実を図ることを期して設立されました。そして、この目標を達成すべく、県教育委員会、関係市町村、市町村教育委員会及び県へき地教育研究連盟とともに、へき地教育にかかわる種々の事業に取り組んでまいりました。この間、県当局をはじめ、関係各位の御尽力によって、へき地学校における教育条件の整備・充実に向けた取組が着実になされ、大きな成果を挙げていることに対し、心より感謝申し上げます。

さて、昨今の社会情勢の変化にはめまぐるしいものがあります。少子高齢化の急速な進行や人間関係の希薄化、高度情報化社会の進展や地球環境問題の深刻化、さらに不登校やいじめ問題等、子どもたちを取り巻く環境は確実に変化しており、教育現場においても解決すべき多くの課題が残されております。このような中、教育基本法や学校教育法等が改正され、これらの規定にのっとり、平成20年3月に文部科学省から新しい学習指導要領が公示されました。ここでは、現代社会のニーズにあわせて、「確かな学力」、「豊かな人間性」、たくましく生きるための「健康や体力」などの「生きる力」の育成をこれまで以上に重視すると述べられております。

現在、へき地学校においては、地域社会との密接な連携のもと、豊かな自然環境や子どもたち一人ひとりの個性を生かした特色ある教育活動が積極的に推進されております。このような教育環境の中で子どもたちは、「生きる力」を確実に身に付けております。これらも、へき地教育に献身的に取り組まれている先生方や地域において様々な御支援をくださっている多くの方々の御尽力の賜であると心から感謝申し上げます。

このたび、へき地教育研究連盟の方々が中心となって、本県へき地学校で行われている特色ある教育等をまとめた「板木」第57集が刊行されますことは、本県のへき地教育の現状と課題を明確にし、今後のへき地教育の振興を図る上でたいへん意義深いものと考えます。関係各位におかれましては、へき地教育に関する研究や実践をまとめたこの「板木」を十分御活用いただき、群馬県のへき地教育の発展・充実のために御尽力くださいますよう、心より御願い申し上げます。

最後に、平素よりへき地教育の振興に御協力いただいております県当局をはじめ、県教育委員会、関係市町村、市町村教育委員会及び各地域の皆様にも、厚く御礼申し上げますとともに、一層の御指導と御協力をお願い申し上げます。刊行に寄せてのあいさつといたします。

平成21年3月

群馬県へき地教育振興会

会 長 星野 已喜雄

## 「板木」第57集の発刊にあたって



県下各へき地学校において、子供たちにたくましく生きる力を育てるために日々献身的な努力を続けられている会員の皆さんに心より感謝申し上げます。今年度の群馬県下のへき地学校数は、小学校39校、中学校18校、計57校でその内分校3校(小学校2、中学校1)が休校中です。教職員数は637名、児童数は2,986名(県下全児童数の2.5%)、生徒数は1,462名(県下全生徒数の2.4%)です。30年前は、小中分校を含めて121校、児童生徒数は、14,726名でした。学校数で64校、児童生徒数で10,278名の減少です。最近の少子高齢化や市町村合併・財政面等からの統廃合が

すすむなかで、一層へき地学校の減少が進行しています。今年度から六合村の第一小学校と入山小学校が統合し六合小学校に、みなかみ町の藤原小学校と藤原中学校が併設校に、須川小学校と猿ヶ京小学校がへき地校でない新巻小学校と統合されて新治小学校になりました。また、渋川市の三原田栄分校が休校になりました。確かに正常な教育活動が行えないような児童生徒数では統廃合もやむを得ませんが、へき地校には豊かな自然があり、四季折々の自然の姿と日々対峙して生活する中で豊かな情操が身についています。子供たちの心のよりどころとなってきたふるさとの文化遺産も数多く残され、行事の中で体験し先人の知恵を学んでいます。温かくて素朴な人情は、人間性豊かな子供の育成にたいへん役立っています。へき地学校には地域に密着した教育があり、個に応じたきめ細かな教育がなされています。個を生かした少人数指導、体験的な学習、特色ある教育活動は、長年にわたってへき地学校で「学力向上」を合い言葉に総力をあげて取り組んできた教育活動そのものです。記録の集積としての証である「板木」を見てみると、会員の皆さんの貴重な実践の成果や献身的な努力を、うかがい知ることができます。「へき地に学校があっても教育にへき地があってはならない」このことは、私たちへき地学校に勤務する者にとって決して忘れてはならないことであり、先人の業績をしっかりと受け継ぎ日々の実践に努めなければなりません。

また、へき地に勤める人に覚えておいてもらいたい人物がいます。その方は、へき地教育の母と言われる、福島県河沼郡日橋村で生誕した渡辺ユキ先生です。先生は、平成17年11月27日に92歳の生涯を静かに閉じました。先生のへき地教育にかけた火の玉にも似た情熱を私たちは、しっかり受け継がなくてはいけないと思います。先生は、「全国へき地教育研究連盟」の誕生や「へき地教育振興法」の制定に先頭になって尽力し実現しました。群馬県へき地教育研究連盟も昭和27年に全国へき地教育研究連盟と同時に結成されました。へき地教育振興法は、昭和29年6月に制定されました。その法律のおかげでへき地における教育の水準の向上が図られ、へき地学校の条件整備が格段に良くなりました。しかし、へき地学校における教職員の特別配当や非常勤講師の配当などがスムーズにいかないことや中堅教職員が極めて少ないことなどの問題も生じています。この法律がしっかり遵守され、平坦地とへき地の教育のバランスがとれ、教育格差が生じないよう各関係機関のご尽力を切に願っています。

へき地学校に携わる私たちは、「へき地こそ教育の適地」と胸を張って県下に発信できるよう足下をしっかりと見つめ、できることを力強く実践していく所存です。

最後になりましたが、第57集発刊に当たり執筆していただいた方々、編集委員の方々にお礼を申し上げますと共にこの一年間ご指導いただきました県教育委員会、県へき地教育振興会を始め、関係機関の皆様衷心より感謝申し上げます、発刊にあたっての挨拶といたします。

平成21年3月

群馬県へき地教育研究連盟

理事長 **黒澤 右京**

# も く じ

## 序 文

県教育委員会教育長  
県へき地教育振興会長  
県へき地教育研究連盟理事長

## 第 1 部 へき地教育の振興

### I 変貌するへき地の学校

六合村立入山小学校閉校 -----	1
吾妻郡六合村立入山小学校（前）校長	西脇 進
六合村立第一小学校閉校 -----	2
吾妻郡六合村立第一小学校（前）校長	中山 邦男
みなかみ町立須川小学校の閉校に思う -----	3
利根郡みなかみ町立須川小学校（前）校長	大川 勤
猿ヶ京小学校 134 年間の歴史－幾多の変遷の中で－ -----	4
利根郡みなかみ町立猿ヶ京小学校（前）校長	堤 義樹

### II へき地の学校経営

『尾瀬学習』～尾瀬に一番近い学校の子どもたち～ -----	5
利根郡片品村立片品北小学校長	青木 美穂子
少人数のよさを生かした体験活動の推進 -----	7
甘楽郡南牧村立南牧中学校長	茂木 正好

### III 学習指導の改善に関する実践的な研究

ふるさとを思い、心豊かにたくましく生きようとする児童の育成 -----	9
～生活科・総合的な学習の時間の充実を通して～	
吾妻郡嬭恋村立干俣小学校長	乾 姫志美

### IV へき地学校における生徒指導の実践

〈1〉 小学校 豊かな心を持ち、たくましく生きる児童の育成 -----	11
渋川市立南雲小学校長	高橋 誠
〈2〉 中学校 小規模校の特性を生かした生徒指導 -----	13
安中市立松井田北中学校教諭	岩井 けい子

## 第 2 部 へき地学校教員研修のあゆみ

### I 平成20年度へき地学校教員研修の概要

群馬県へき地教育研究連盟研究部長 -----	15
高崎市立倉渕川浦小学校長	高橋 和幸

## II 第57回群馬県へき地教育研究大会

〈1〉 概 要 -----	16
〈2〉 提案要旨	
《小学校1班》小規模・少人数校の特性を生かした学校経営の推進 -----	17
安中市立上後閑小学校長	瀧澤 邦夫
《小学校2班》確かな学力と豊かな心を身に付けた児童の育成 -----	18
～レインボーアクションを通して～	
沼田市立利根東小学校長	大谷 明
《中学校班》小規模校の特性を生かした「豊かな人間性」を育むための体験活動 -----	19
嬭恋村立西中学校校長	山野 邦明
〈3〉 公開授業・授業研究会	
高崎市立倉渕中央小学校 -----	20
高崎市立倉渕中学校 -----	25

## III へき地教育ブロック別実践研究集会

〈1〉 Aブロック（前橋・高崎・安中・多野・甘楽） -----	27
〈2〉 Bブロック（吾妻） -----	28
〈3〉 Cブロック（利根・沼田・渋川） -----	29

## IV 第57回全国へき地教育研究大会（山梨大会）

〈1〉 概要報告	高崎市立倉渕川浦小学校長	高橋 和幸 -----	30
〈2〉 分科会報告			
B分科会	ふるさと早川に誇りを持ち、たくましく生きる生徒の育成 -----		31
	～表現力の向上を目指す教育活動を通して～		
	群馬県教育委員会義務教育課指導主事	松村 澄人	
C分科会	豊かな心をはぐくむ清里教育の創造 -----		32
	～ひと・もの・しぜんとの関わりを通して～		
	利根郡片品村立片品小学校教諭	星野 純一	
D分科会	地域や生徒の実態をふまえた学びの創造 -----		33
	～個や集団を生かした指導の工夫を通して～		
	多野郡上野村立上野中学校長	黒澤 右京	
E分科会	生き生きと学び合う子ども -----		34
	～互いの立場や考えを尊重し、言葉で伝え合う子どもの育成をめざして～		
	高崎市立倉渕川浦小学校長	高橋 和幸	
F分科会	自ら学び、考え、主体的に行動することのできる生徒の育成 -----		35
	～『ことばの力』をはぐくみ、確かな学力の向上をめざして～		
	沼田市立利根中学校長	池田 恵一	
H分科会	地域にねぎし、たくましく明日を拓く生徒の育成 -----		36
	～学びの意欲を高め、自ら考え、表現する力を育てる実践を通して～		
	甘楽郡甘楽町立第三中学校教諭	茂木 誠	



I 分科会	心豊かに たくましく生きる あきっ子の育成 ----- 37 ～食育の取り組みを通して～ 吾妻郡嬭恋村立干俣小学校教諭 高木 茂
J 分科会	意欲的に学習する生徒の育成をめざして ----- 38 ～生徒一人一人を大切にしたいきめ細かな指導を通して～ 吾妻郡長野原町立西中学校長 中澤 和則

**《資 料》**

I	へき地学校の変遷 ----- 39
II	平成 20 年度へき地学校資料 ----- 39
III	平成 20 年度群馬県へき地教育振興会役員 ----- 42
IV	平成 20 年度群馬県へき地教育研究連盟役員 ----- 43
V	平成 20 年度群馬県へき地教育センター指導員 ----- 44
VI	平成 20 年度へき地教育功労者 ----- 45
	<b>あとがき</b> ----- 46



全国へき地教育研究大会山梨大会（上野原市立秋山小学校）

# 第 1 部

## へき地教育の振興



群馬県へき地教育研究大会 倉渕中央小公開授業3年



群馬県へき地教育研究大会 倉渕中公開授業3年



# I 変貌するへき地の学校

## 六合村立入山小学校閉校

六合村立入山小学校（前）校長 西脇 進

### 1 地域に支えられた学校

明治8年に、寺子屋の「月州庵」に仮設され、翌年に『花敷学校』として開校しました。爾来132年間子供たちの学校、地域の学校として入山の人たちのよりどころとなってきました。ここから巣立った卒業生は2,000人の上になります。一時は元山、長平、品木の3つの分校を持つまさに山間へき地の学校です。背後に野反湖を抱え、谷間には白砂川が走り、浅間山が眺望できる自然の豊かな学校です。

しかし、恩恵と同時に自然の厳しさも避けられません。田代原の開拓からは毎日2時間近くかけて通いました。帰り道は山登りの道ですので3時間はかかりました。雪の日は保護者が雪かきをして通学路を整備しました。冬の厳しさにも負けずわら靴で、毎日元気に通って来ました。厳しい雪の中を、やっと学校に着いたとたん、「今日は臨時休校ですよ。」と言われたときもありました。しかし、そんなことはよくあることで慣れたものだったそうです。職員室のストーブで暖まり元気に家にもどったものでした。

学校の前には白砂川をはさんで花敷温泉があります。岩肌のツツジが川面にいっぱい敷き詰められているかのように映し出された景色があまりに美しいので花敷と名付けられました。大正11年に歌人若山牧水は草津から沢渡に向かう途中、花敷に寄りました。その道筋で当時引沼の学校に立ち寄ると、裸足になって汗を流し体操を教えている姿に感動し『先生の一途なるさまもなみだなれ 家十ばかりなる村の学校に ひたひたと土踏み鳴らし真裸足に 先生は教ふ その体操を 先生の頭の禿もたふとけれ此処に死なむと教ふるならめ』と「みなかみ紀行」で歌っています。

入山には山本の姓が多いですが、平家の落人たちが入山に住み着いたということも言われていて、正月元日に間に合った山本は宵の山本、間に合わなかった方は明けの山本といわれています。明けの山本は今でも門松は立てない風習が残っています。入山の郷土にはたくさんの言い伝えの話があり、現在も昔語りによく伝えられています。メンパ、すり鉢、こんこん草履など人々は文化を大切にし、生活の中に息づいています。学校は、子供たちに入山の文化を継承していく一つの拠点です。地域の人たちには学校がなくなるという出来事は本当にさみしいことだと思います。

時代の流れの中で132年の幕を閉じるわけですが、閉校の記念誌には多数の方々から寄稿をいただき、先人の努力、苦心、熱意に支えられてきたことを痛感します。最後の子供たちは40名でしたが、何事にも一生懸命取り組み決して手をぬくような子供たちではありませんでした。新しい学校へ行っても元気いっぱい活躍してくれることを信じています。地元の応援者の力で「はなわ君」を呼びラジオの収録を企画していただきました。閉校に花を添えていただきました。

長い年月、支えていただいた方々へ心からお礼を申し上げます。また、閉校という一つの歴史が終わる事実が、輝かしい過去を照らすとともに、新しい未来への道しるべとなることを願っています。



### 2 入山小学校の歴史

明治8年 根広「月洲庵」に仮設。明治9年 花敷に花敷小学校として開校。明治20年 赤岩尋常小学校引沼分教場となる。明治43年 六合尋常高等小学校入山分教場となる。昭和16年 六合村国民学校入山分教場となる。昭和29年 六合村立入山小学校となる。元山分校、品木分校、長平分校をかかえる。平成20年 閉校 六合村立六合小学校として統合する。

# 六合村立第一小学校閉校

六合村立第一小学校（前）校長 中山 邦男

## 1 はじめに

「のぼる朝日よ 浅間の山よ 夢おいかける わたくしたちに 白い校舎が 光ります 若木のように すくすくと 仲良く今日も 学びます 伸びゆけ 伸びゆけ 第一小学校」

この校歌が今後ほとんど歌われないことを思うと、寂しく思います。六合村立第一小学校24年間の歴史の幕が降ろされました。恵まれた自然と文化のなかで、子どもたちはすくすくと育ってきました。学力向上に、体力づくりに、音楽活動に、精一杯取り組んできました。地域の方々の絶大な支援を受けて発展を続けてきた第一小学校ですが、児童数の減少など諸々の事情により、この度閉校となり、六合村立入山小学校と統合されることとなりました。しかし、この学舎で育った人々、また地域の多くの方々にとって、六合村立第一小学校の思い出は、けして忘れることのない宝物です。

## 2 沿革概要

昭和59年4月、六合村立南小学校と六合村立六合小学校が統合し、六合村立第一小学校が開校しました。昭和60年には、県教委より「体力づくり実践推進校」の指定を受けました。体力づくり活動は閉校のときまで続けました。昭和62年には、県より「良い歯の学校」で表彰されました。平成6年、県社会福祉協議会より「社会福祉協力校」の指定を受けましたが、指定の期間を過ぎても活動は継続しました。

平成8年からは、県教委より「学力向上実践推進地区」の指定を受けたことにより、児童の学力向上に熱心に取り組みました。そして、平成12年、県教委より「地域に根ざしたPTA活動」の指定を受け、平成13年、「学校指導員」制度が始まったことにより、地域の方々の力を借りて教育活動が展開される道筋ができました。これも閉校のときまで、教科の学習で、総合的な学習の時間等で学校指導員さんの指導による厚みのある学習が行われてきました。音楽コンクールにも参加しました。保健関係でも表彰を受けました。

この間、295名の卒業生を送り出しました。この24年間の第一小学校の教育の歩みは、いつまでも語り継がれることでしょう。



## 3 おわりに

昭和20年代後半、多くの地域で分校や分教場が独立した頃は、子どもの数も多く、けして豊かであるとは言えない生活環境の中でも、学校は活気に満ちていたと想像されます。それは、先輩方の話の中にもうかがい知ることができます。しかし近年、諸般の事情により学校が統合される例が多くなってきました。誠に寂しいかぎりです。この地域は、わずかな期間に、2度の学校統合を経験することとなりました。

しかし、子どもたちの活動はなお継続し、彼らには未来があります。このときを、また新たなたびだちのときととらえ、ふるさとの自然と文化を愛し21世紀をたくましく生きる六合の子どもたちを、みんなで力を合わせて育てていきたいと思ひます。村で唯一の小学校となる六合村立六合小学校に期待したいと思ひます。

# みなかみ町立須川小学校の閉校に思う

みなかみ町立須川小学校（前）校長 大川 勤

## 1 はじめに

須川小学校は明治6年9月泰寧寺を教場として創立されました。翌年には須川町有志の発起によって須川町共有地に熊谷県北第19大区第9小区須川町立須川小学校が設立されました。創立当初から学校に対する地域の人たちの熱意が感じ取られます。大正9年には2階建ての校舎が設立され、昭和60年にはこの校舎も老朽化仕立て直しの運びとなりました。昭和61年に現在の校舎が新築されました。設立され今日まで134年間の永きにわたり地域に貢献してきた須川小学校は38名の校長と1298名の教職員によって5549名の児童を送り出しました。現在、115名の児童数を有している学校ですが、今後の児童数の減少と、このたびの新治地区の小学校の統合によりやむなく平成20年3月31日をもって閉校となりました。

## 2 沿革概要

明治 6年 9月	泰寧寺に須川小学校として開校
明治14年 4月	校舎新築落成
明治41年 5月	久賀村・湯の原村合併，新治村誕生，新治村立須川尋常小学校となる
大正 9年11月	二階建校舎新築竣工
昭和 9年 3月	児童文集「檜の家」創刊
昭和23年 3月	P T A組織される
昭和38年 9月	ミルク給食設置
昭和42年 3月	校歌制定
昭和44年 7月	プール完成
昭和61年 4月	校舎新築竣工
平成 3年11月	福祉協力推進校実践発表会の実施
平成 6年 3月	文部省指定「学校週五日制実践研究地域協力校」研究紀要発刊
平成 9年 3月	体育館完成
平成10年 4月	県指定「学力向上実践推進地区」を受ける
平成11年 6月	新潟県南魚沼郡湯沢町立土樽小学校との交流会が始まる
平成12年10月	群馬県へき地教育研究大会実践発表
平成14年 4月	文部科学省指定「豊かな体験活動事業」の推進校となる
平成15年 4月	入須川小学校と須川小学校が統合され，須川小学校となる
平成17年10月	町村合併（水上町 月夜野町 新治村）により「みなかみ町立須川小学校」と改称される。
平成19年11月	群馬県教育委員会より「健康推進学校」の表彰を受ける

## 3 おわりに

平成16年4月に着任して以来、統合建設にかかわってきました。振り返ってみますと、平成17年6月に統合建設の請願が採決され、12月には予算案が採決され、本格的に校舎建設について審議が始まりました。統合反対の住民が多い地域の中で、住民感情を尊重しながら校長として閉校準備委員会を組織し、議員、区長、歴代P T A会長の皆様の協力をいただきながら閉校の準備を進めて参りました。年々入学予定児童数が減少し、平成23年度の全校予定児童数は83名になります。この須川地区から小学校がなくなることは言葉で言い尽くせない複雑な思いがあります。新設校の新しい校舎で共に学び活動する姿を期待したいと思います。

# 猿ヶ京小学校134年間の歴史－幾多の変遷の中で－

みなかみ町立猿ヶ京小学校（前）校長 堤 義樹

## 1 はじめに

猿ヶ京小学校の歴史はなかなか複雑で、地域の時代の移り変わりを表している。明治7年、かつての久賀村に猿ヶ京小学校分教場がつくられ、それから3年後、湯ノ原村に相俣分教場がつくられた。この2校が猿ヶ京小学校のスタートである。その後、明治41年に久賀村と湯ノ原村の合併により新治村が生まれた。それから、4年後の明治45年（大正元年）に、2校の分教場を統合した生井尋常小学校が、現在は赤谷湖の底である生井地区につくられた。

その後、電力需要の中で、赤谷川に相俣ダムの建設が決まり、昭和31年の春に生井小学校は一段上の相俣地区に移転することとなった。この時、校名は生井小学校から「猿ヶ京小学校」に変更となった。当時、子ども、保護者、教職員が荷物を背負って細い2キロの坂道を歩いての引っ越しであった。ダムの完成とともに猿ヶ京温泉も栄え、猿ヶ京小学校は、昭和30、40年代では、児童数が300名を超えることもあった。昭和60年、現在の校舎建築のために推進会議が立ち上がり、その4年後に、全館木造の特色ある校舎が完成した。当時は話題となり、平成6年には、各方面からの校舎見学者数が延べ2千名を超えるほどであった。

しかし、児童数の減少の中で「新治統合小学校建設委員会」が立ち上がり、その後、平成の市町村合併により、新治村がみなかみ町となる等の多くの経緯を経て、平成20年3月猿ヶ京小学校は閉校することとなった。

## 2 沿革概要

- |       |     |                                   |
|-------|-----|-----------------------------------|
| 昭和41年 | 3月  | ・学校文集「りんどう」創刊                     |
| 〃     | 47年 | ・赤谷冬季分校閉校<br>赤谷スクールバス運行           |
| 〃     | 53年 | 3月  ・永井分校閉校式<br>若山牧水歌碑除幕式         |
| 〃     | 59年 | 4月  ・県教委体力づくり実践推進校指定3年間           |
| 平成    | 4年  | 4月  ・生涯学習実践推進校2年間                 |
| 〃     | 8年  | 4月  ・県立図書館より「親子20分読書運動」の指定2年間     |
| 〃     | 10年 | 4月  ・群馬テレビ「木づくりの校舎」放映             |
| 〃     | 17年 | 10月  ・新治村、月夜野町、水上町が合併して「みなかみ町」    |
| 〃     | 20年 | 3月  ・猿ヶ京小学校閉校記念式                  |
| 〃     | 20年 | 4月  ・新治地区3校（猿ヶ京、須川小、新巻小）が新治小学校に統合 |



## 3 おわりに

本校は、校名や所在地は変わりながらも、新治村北部の永井、吹路、猿ヶ京、赤谷、相俣、浅地の6地区の子どもたちの教育を長く担ってきた。平成になっての木造校舎建築の際、地域の方々の協力は何年にも渡るものであった。また、完成後は、民話の学習、お年寄りの方々とのふれあい活動、そして読み聞かせや子ども教室等、地域と学校との連携・協力は深まっていった。

平成19年度の児童数は74名である。今回、時代の大きなうねりの中で猿ヶ京小学校は閉校することとなった。閉校は寂しいことであるが、小学校の統合が、子ども達の成長、そして地域の発展に結びつくことを願っている。



## Ⅱ へき地の学校経営

### 『尾瀬学習』～尾瀬に一番近い学校の子どもたち～

片品村立片品北小学校長 青木 美穂子

#### 1 はじめに

本校のある片品村は、群馬県の北東部に位置し、豊かな自然に恵まれた観光と農業の村である。観光面では9つの温泉群や7つのスキー場、高山植物と湿原で多くのハイカーを魅了する尾瀬等があり訪れる人が多く、農業では高地を利用した高原野菜やリンゴの栽培が盛んである。本校は、群馬県側からの尾瀬の入り口である土出・戸倉地区にあり、平成19年に単独の国立公園となった尾瀬に一番近い学校である。児童数60名（複式学級1）で、保護者の多くは尾瀬やスキー場とかかわった仕事をしている。

#### 2 学校経営方針

- (1) 基礎学力の向上（習得と探究を意図した授業づくり）
- (2) 全教職員参画による学校経営（人事評価を生かした組織運営）
- (3) 教職員の資質向上（指導力の向上を図る研修の充実）
- (4) 地域を支える学校、地域で支える学校（家庭・地域と連携した教育の充実）

#### 3 実践の概要

##### (1) 歴史ある『尾瀬学習』

本校に昭和30年（まだ尾瀬ヶ原に木道のない）頃の尾瀬遠足の写真がある。片品小学校土出分校から独立し、片品北小学校として開校した当初から尾瀬の自然の素晴らしさにふれるとともに、この美しい地を自分たちの大切な場所として守ろうとしてきた。尾瀬学習は、昭和53年にスポーツ少年団の活動としてスタートした。昭和57年度からは4～6年生による1泊2日の尾瀬学習となって継続され、平成13年度からは3年生も加わり、総合的な学習の時間を活用して尾瀬学習に取り組んでいる。

##### (2) 各学年のコースと学習目標及び本年度の日程

###### ① 3年生（13名） H20.7.3（木）

コース：鳩待峠から山の鼻「研究見本園」

目標：尾瀬の植物・動物や虫などについての課題を設定し、学び方やまとめ方や発表の仕方を理解する。



【ガイドの話を聞く3年生】

###### ② 4年生（7名） H20.7.3（木）～4（金）

コース：鳩待峠から尾瀬ヶ原 見晴に宿泊

目標：尾瀬ヶ原の動植物や池塘・川の様子などについて観察したり調べたりする。尾瀬について自分なりの考えをもつ。



【野鳥を観察する6年生】

###### ③ 5年生（9名） H20.7.3（木）～4（金）

コース：鳩待峠からアヤマ平を經由し、見晴に出て宿泊、尾瀬ヶ原・三条の滝へ

目標：アヤマ平の環境復元の過程や荒らされた湿原を観察し、他の地域の環境問題とも関連づけて、自然保護について考えをもつ。

#### ④ 6年生（14名） H20.7.3（木）～4（金）

コース：大清水から三平峠を經由して尾瀬沼で宿泊、沼尻を経て尾瀬ヶ原へ

目標：尾瀬沼の自然について観察したり調べたりする。

尾瀬沼周辺の環境保全活動の歴史を調べ、他の地域の環境問題とも関連づけて、自然保護について考えをもつ。

#### (3) 地域・保護者との連携・協力

##### ①尾瀬高等学校との連携

高校との連携は平成18年度より始められ、年々充実してきている。本年度は事前学習・現地学習・事後学習の全ての学習過程において尾瀬高校との連携による指導を計画・実施することができた。

##### ア．事前学習 H20.6.24（木）、6.30（月）

- ・尾瀬高等学校情報センターで、課題づくりや調査方法についてアドバイスを受ける。
- ・本校で、具体的な調査方法についてアドバイスを受ける。

##### イ．現地学習 H20.7.3（木）～4（金）

- ・各学年に1名ずつアシスタントガイドに同行していただく。

##### ウ．事後学習 H20.9.10（水）

- ・本校で課題のまとめ方についてアドバイスを受ける。
- ・発表会に同席していただき、尾瀬学習についてコメントしてもらう。



【尾瀬高校での事前学習】

##### ②地域・保護者との連携

尾瀬についての専門的な知識をもつネイチャーガイド・片品山岳ガイド協会・尾瀬林業にそれぞれお世話になりながら、各学年の現地学習のガイドをしていただいている。宿泊先の檜枝岐小屋や尾瀬沼山荘、休憩場所として利用している竜宮小屋や山乃鼻小屋、富士見小屋等には事前に日程を知らせ、綿密な計画の基に協力していただいている。保護者の参加・協力も多いので、事前の連絡・調整を丁寧に行い、保護者が都合を付けて同行できるよう配慮している。

#### (4) 尾瀬学習発表会 H20.9.17（水）

尾瀬学習発表会は、本校で一番多くの人数を招く大きなイベントである。保護者だけでなく、いつもお世話になっている支援隊のお年寄りや尾瀬高校生も招いて学習の成果を発表する。子どもたちは尾瀬で学んだことを多くの人々の前で発表することで、自分と尾瀬とのかかわりを強く自覚し、自分にできることを実践していこうという自信と意欲をもつことができる。長年尾瀬にかかわって生きてきたお年寄りが、子どもたちの発表に目を細める姿が印象的である。



【尾瀬で学んだことを発表する】

## 4 おわりに

尾瀬学習には30年の歴史があり、代々の片品北小学校の子どもたち・保護者・先生方が大切に引き継いできた。本校は、今年8月30日に「平成20年度自然公園ふれあい全国大会」（福島県檜枝岐村）で群馬県知事表彰を受賞した。地域に支えられて『尾瀬学習』を経験した子どもたちが、地域を支えていく人材となることを信じている。そして、「自然の宝庫である尾瀬に親しみ、自然への畏敬の念をもち、郷土を愛する豊かな心を育てる」「環境問題に対する関心を高め、自分たちにできることを考え、実践への意欲をもたせる」というねらいをもつ尾瀬学習のバトンを未来の北小の子どもたちにも繋いでいきたい。



# 少人数のよさを生かした体験活動の推進

南牧村立南牧中学校長 茂木 正好

## 1 はじめに

本校は、群馬県の南西部に位置する南牧村にあり、起伏のある山々や、杉・桧などの樹木に囲まれた自然豊かな山間にある。校区内は、主要地方道下仁田・上野線及びそれと分岐する県道・村道が南牧川の支流に沿って伸びている。昭和30年3月、尾沢・月形・磐戸の3カ村が合併して本村が発足して以降、産業構造の変化で人口が流出し、総人口の減少や高齢者比率の増加といった問題が生じている。児童生徒数の減少に伴って学校の統廃合が漸次行われ、本校は村内唯一の中学校である。



今年度の生徒数は36名で、3学級のへき地小規模校である。生徒は明るく素直で、指示されたことに真面目に取り組む。一方、自ら考え積極的に行動する等の自主性がやや不十分である。保護者や地域の方の教育に寄せる期待は大きく、学校行事やPTA活動への参加には大変協力的である。

## 2 学校教育目標

- ◎基本目標 「共に学び、共に考え、共に行動する生徒の育成」
- ◎具体目標 ○互いに認め合い、協力する生徒 ○進んで読書に取り組む生徒  
○目標に向かって努力する生徒

## 3 学校経営の方針

- (1) 師弟同行により「共存共生」の精神や態度を培い、豊かな人間性の育成を図る。
- (2) 少人数学級の特性を生かし、個に応じた指導を充実し、基礎学力の向上を図る。
- (3) 基本的生活習慣を確立し、健康の増進や体力の向上を図る。
- (4) 問題行動の未然防止・早期発見・迅速対応に努め、積極的な生徒指導を図る。
- (5) 生徒に将来の夢や目標を持たせ、キャリア教育の充実を図る。
- (6) 的確な実態把握に努め、個に応じた支援により、特別支援教育の充実を図る。
- (7) 家庭や地域との連携を深め、地域の教育力の活用を図る。

## 4 実践の概要

- (1) 実践テーマ 「少人数のよさを生かした体験活動の推進」
- (2) ねらい

家庭・地域・関係機関と連携し、少人数のよさを生かした体験活動を推進することにより、生徒一人一人の好ましい勤労観・職業観を育てるとともに、自ら生活する地域社会を深く知り愛着を持たせ、将来の地域社会を形成していく力を育成する。

### (3) 実施内容

#### ①サルビア苗移植・片付け活動（全学年）

地域団体の「花いっぱい活動」に支援協力するボランティア体験として実施する。6月と11月に各1日活動日があり、6月にはプランターや空き地へのサルビア苗の移植作業、11月にはサルビア苗の引き抜き・用具の片付け作業をする。地域の奉仕活動に参加・協力でき、生徒は充実感を持つことができた。



(移植作業)

## ②栗島海の体験学習（2年生 15名）

村の委託事業として、夏季休業中の3日間に亘り実施する。周りを海に囲まれた離島での体験を通し、本村と異なる自然や様々な人々と触れ合う学習をさせる。実施内容は、海水浴場や磯辺での体験活動、宿舎での集団宿泊活動、栗島浦中学校生徒との交流活動、村関係者等との反省会、体験学習作文集の作成である。参加生徒は、体験学習を印象深く受け止めた記録を作文集に残している。



（磯辺での交流活動）

## ③林業体験学習（1年生 8名）

役場振興整備課・村森林組合・環境森林事務所と連携し、9月下旬の1日で取り組む。生徒に森林や林業のこと、働くことの意義を学習させる。実施内容は、事前学習、林業体験（木工作业体験、間伐作業体験）、事後のまとめである。生徒は、ベンチの組立作業や間伐作業に意欲的に取り組んだ。特にチェーンソーを使って、杉を間伐する体験を印象深く受け止めていた。



（木工作业体験）

## ④職場体験学習（2年生）

村内だけでなく広域の事業所数カ所に協力してもらい実施する。職場での直接体験を通し、働くことの意義や働きがいを学習させるため、9月下旬の連続2日間で取り組む。実施内容は、事前学習、希望する職業・職場の選定、校外講師（地域人材）による事前講話、職場体験学習当日、事後のまとめと礼状の作成、文化祭での発表である。生徒は意義ある体験ができたとまとめている。



（職場での体験学習）

## ⑤奉仕活動〈リサイクル活動〉（全学年）

本校PTA並びに南牧小PTAが共催で実施するリサイクル活動にボランティア体験学習として参加する。8月の日曜日に保護者・教職員とともに、空き瓶・古紙の分別整理、トラックへの積み込み作業に取り組む。生徒は協力し合って熱心に活動した。



（古紙の整理作業）

## ⑥地域人材等による講話（全学年）

地域人材等の講師から、本村の今昔にかかわることや、講師本人の職業選択にかかわる話をしていただき、生徒には生き方や進路指導等の学習に生かすことをねらって受講させている。講話は、全校集会や授業中などに設定している。

## ⑦福祉体験学習（3年生 13名・1年生全員）

地域内の特別養護老人ホームと連携して実施する。総合的な学習での取り組みを生かす場として、11月に1・3年生が出向いて入所者と交流する。幸い施設は、学校から徒歩で通える距離なので、複数回出かけることを計画している。

## 5 おわりに

家庭・地域・関係機関と連携し、少人数のよさを生かした体験活動をすることで、生徒は地域内の様々な人々や仕事に触れ、地域社会への理解を深めている。また、自分の身体を使って働くことで、勤労の大変さ・大切さを理解するとともに、自己の個性・適性を理解し、主体的に進路選択する際に必要となる知識や技能を徐々に身に付けてきている。

今後さらに協力してもらえらる地域人材・団体・関係機関との連携及び積極的な活用を図るとともに、体験活動の質的向上を図りたいと考える。

## Ⅲ 学習指導の改善に関する実践的な研究

### ふるさとを思い、心豊かにたくましく生きようとする児童の育成

～生活科・総合的な学習の時間の充実を通して～

婦恋村立干俣小学校長 乾 姫志美

#### 1 学校・地域の概要

本校は、標高 1000 m の高原地帯にあり、全校児童 65 名の小規模校である。学校周辺では、長野県との県境にある雄大な浅間山を背景に、キャベツ栽培が盛んに行われている。男児の氏名には「雄大」「雄也」「龍人」「龍也」など「雄」や「龍」の文字が多く、本校の卒業生でもある冬季オリンピック・スピードスケートで活躍した黒岩 彰選手に続いて世界に羽ばたいてもらいたいという親の願いが感じられる。女児の氏名には「加菜」「楓菜」「菜津海」など「菜」の文字が多く、地域発展の礎が「白菜」や「玉菜(キャベツ)」栽培にあったこと、そのお陰で今の生活を忘れて欲しくないという家族の願いが感じられる。こうした保護者や地域住民の思いや願いを踏まえ、本校では、遊びやスポーツ、栽培活動などを団別や地区別（通学班別）の異年齢集団活動として取り組ませることを通して、温かい人間関係づくりと命の大切さを学ばせる体験活動に取り組んでいる。



#### 2 校内研修の主題並びに主題設定の理由

本校は、平成 19 年度・20 年度の 2 か年にわたり文部科学省より「豊かな体験活動推進事業（命の大切さを学ばせる体験活動の実施）」の指定を受けている。例年、農作物の栽培活動は、第 5 学年が東京都千代田区立昌平小学校との交流会の一環として行われたり、生活科や理科の学習において植物の成長を学習するために行われたりしている。本年度は、団別による異年齢集団活動として、全校体制でものづくりや生産活動といった体験的な活動に積極的に取り組み、各学年における生活科・総合的な学習の時間の充実を図ることにした。こうした異年齢集団活動に取り組ませることによって、児童は相手のことを思いやり、日ごろ世話になっている人に感謝する心をはぐくんだり、この世に生まれてきたことに感謝し、生きている喜びをかみしめたりすることができ、将来にわたってふるさと「干俣」に愛着をもって生きていこうと考える、本主題を設定した。

#### 3 研究の概要

##### (1) 農作物の栽培活動

学校農園を利用して栽培した農作物を、バラギ高原キャンプ場にて調理し、お互いに収穫を喜び合うという一連の体験活動を下記の計画に沿って行った。

- |     |   |
|-----|---|
| 4 月 | 異年齢集団の編成（4 団編成）   |
| 5 月 | 本体験活動にかかるオリエンテーション<br>年間活動計画の立案（調理内容の検討→自分たちで栽培できる食材の検討）<br>学校農園の耕作及び播種 |
| 6 月 | 農作物の成長観察及び除草作業並びに水くれ等   |
| 7 月 | 農作物の成長観察及び除草作業並びに手入れ作業（～9 月）  |
| 9 月 | 収穫祭にかかる具体的な活動計画の立案、農作物の収穫、収穫祭   |

#### ① 学校農園の耕作及び播種

地域の酪農家より安く分けていただいた牛糞を、一輪車で小分けにして運び、畑の隅々まで散布する作業に汗を流した。「くさい」「汚い」などと言って牛糞の扱いを嫌がり、作業から逃げ出す児童がいないことには感心した。

各団ごとに、秋の収穫祭をイメージしながら、学校農園にまく種や植える苗について相談した。「あれが食べた〜い」という低学年児童の希望も取り入れながら、高学年児童が上手に計画書を作成した。種まきの作業では、高学年児童がさく切りした畑に、低学年児童が野菜の種をまいたり、ジャガイモやサツマイモの苗を一つ一つ丁寧に植えたりする姿が見られ、大変ほほえましかった。

#### ② 農作物の成長観察及び除草作業並びに水くれ等

自分たちでまいた種が芽を出すことは、児童にとって大変しみななことである。業間休みや放課後に学校農園に足を運ぶ児童の姿がよく見られた。農作物が本格的に成長を始めると、低学年児童と高学年児童とでグループを編成し、毎日野菜の水くれ当番が行われた。大きなジョウロに水を一杯入れ、よろけながら作業する低学年児童にそっと手を貸す高学年児童の姿には感心させられた。除草作業は、よりよい収穫を目指して、各団とも競争で行った。

#### ③ 農作物の収穫

待ちに待った収穫の日。児童は朝からテンションが高かった。手を掛けてきた分、収穫に対する期待が大きいためである。ニンジンの葉やジャガイモ、サツマイモの蔓を引き抜き、出てきた「お宝(?)」に歓声を上げたり、にんまりしたりする児童の表情に思わず笑みがこぼれる。成長が遅れ、小さかった野菜も児童にとっては大事な収穫物であり、それらも含めて全部持ち帰った。

#### ④ 収穫祭

収穫祭では、これまでの体験活動において楽しかったことや嬉しかったこと、大変だったことや苦勞したことなどが発表された。各団の上級生が中心となって煮たり焼いたりしたジャガイモやサツマイモに、各自が持参した調味料（多くは塩やマヨネーズであったが、中にはネギ味噌やネギマヨなどもあった）を付けて、おいしそうに食べる児童の姿がたくさんあった。調理時間不足で少々芯のあったジャガイモを「もったいないから、家に帰ってレンジで『チン』して食べます。」と言って持ち帰る児童もいたのには驚いた。

#### (2) 花の栽培活動

例年サルビアの苗とプランターを購入し植え付け、咲いた花を秋の運動会で会場に飾っていた。本年度は、「サルビアの種を播く活動」と「プランターを制作する活動」を加えることによって栽培活動の充実を考えた。

低学年児童は、高学年児童から手渡されたサルビアの種をかわいい手で大事そうにかかえ、高学年児童が指で開けてくれた穴に一粒一粒大事そうに播いていた。

プランターの製作は、地域の製材業を営む方を講師に招き、杉材を使って組み立て、バーナーで焦げを付けるという本格的な作業であった。高学年児童に板材を押さえてもらい、低学年児童は金槌で釘を打ち付けるなど、団の一員としてその役割を立派に果たしていた。

### 4 まとめと今後の課題

生活科・総合的な学習の時間における異年齢集団活動による体験的な活動を通して、低学年児童にはたくさんの「笑顔」が見られるようになった。また、高学年児童には小さい子と手をつないであげたり、背中をそっと後押ししてあげたりする姿が随所に見られようになった。

今後も児童の実態を踏まえたより効果的な異年齢集団活動の在り方を工夫し、生活科・総合的な学習の時間の充実を図っていくことが必要である。



## IV へき地学校における生徒指導の実践

### 〈1〉小学校

## 豊かな心を持ち、たくましく生きる児童の育成

渋川市立南雲小学校長 高橋 誠

#### 1 地域・学校の概要

渋川市赤城町は、赤城山の西麓に位置し、その最東北部の沼尾川流域を中心とした地域に本校校区はある。歴史的には、旧沼田街道の南雲本陣所在地として栄え、旧跡・伝統行事等が数多く残されている。学校教育には関心が高く協力的で、また、地域保護者が中心となって南雲の史跡を辿る「南雲かるた」をつくるなど史跡や文化を守ろうという意識は強い。

緑豊かで自然に恵まれた地域で、特に山間部には群馬県の天然記念物「ヒメギフチョウ」が県内唯一棲息し、住民あげて保護活動に取り組み、本校児童もその一翼を担いつつ保護活動に環境学習に取り組んできた。

近年は、果樹園芸や畜産・コンニャク栽培等の専門化や工場誘致が進むものの、児童数の通減傾向に歯止めがかかっていない。

#### 2 生徒指導の重点

##### (1) 児童の特性

全校児童は77名で、特別支援学級含めて7学級、学級人数は、最小8名から最大18名の編成となっており、きめ細かな学習や生活指導が可能となっている。行事を中心に各学年合同の縦割り活動に取り組み、学年間の連携もきわめて良好で、上級生が下級生に「ヒメギフチョウ」保護活動の大切さや取り組み計画を伝えたり、休み時間に一緒に遊んだりして一体感のある雰囲気醸成している。その他、生徒指導上の逸脱行為等も皆無の状態である。

ただ、小規模なへき地校の例に漏れず、名前呼び合うほど親近感があるものの、狭い人間関係の固定化と強い横並び意識による自主性や積極性の薄さが大きな指導課題である。

##### (2) 生徒指導の方針と努力点

小学校6年間の生活を通じて教科等の学習や学校生活全体を通じてその学年にふさわしい自己決定と主体的な行動、そして自己実現の力を培っていくことが肝要と考える。従って、生徒指導は、生活全般にわたる諸活動を対象とし健康指導から人権・道徳・特別支援教育等のあらゆる場面で展開されなくてはならない。そこで、本校では年度当初に今年度の教育活動の重点を、①自主的自治的活動の推進、②温かい人間関係の育成、③きめ細かな指導の充実の3点に集約し、学校の諸活動を俯瞰する「南雲小教育の基本構想」を策定して、生徒指導の観点から学校教育目標にせまるべく取組を強化した。

なお、努力点として、①学級経営における生徒指導の充実、②授業中における積極的な生徒指導、③教育相談活動の充実、④地域・保護者・関係諸機関との連携強化を掲げた。特にその具体策として、

- 学級(授業)内外を問わず、発表・発言機会の充実
- 朝の実態調査の充実(アイコンタクトして呼名。十分な意思の疎通等の申し合わせ)
- 言葉遣い改善(呼び捨て禁止)運動
- ノーゲーム・ノーメディアデーの実施と生活総合点検活動
- 月別指導目標(月別重点)の明確化と達成度の検証
- 児童教育相談日と保護者教育相談日の実施と結果の生徒指導への反映

○特別支援教育部や関係諸機関との連携  
等、出来る限り行動目標として検証可能な活動を仕組んで取組を強化した。

### 3 具体的な取組

#### (1) 発表・発言機会の充実

「発表のしかた」の教室掲示、授業中の発言や発表はもとより、朝の集会活動、行事、集団下校、始業式・終業式、「ヒメギフチョウ保護活動」場面にも設定するなど、事あるごとに児童の発表機会を設定。また、学年発表会や委員会から提案等、発言の場の設定も行った。その結果、徐々にではあるが、低学年においては、若干の個人差はあるものの、物怖じすることなく言葉をはっきり発言することができるようになり、また、高学年では、発表内容をまとめて原稿を見ない(読まない)で、発表できるようになってきた。

#### (2) アイコンタクト呼名活動

意欲を高め、あるいは不安な気持ちを解消して、1日の始まりをスムーズにする最初の手だての重点化である。このため、朝の諸活動や職員打合せの前に10分間の時間を設定して取り組んだ。

#### (3) 言葉遣い改善(呼び捨て禁止)運動

乱雑な言葉遣いを見直そうという運動で、当然ながら「さん」づけ、「くん」づけすれば良いというものではない。自分の気持ちを素直に出すコミュニケーション能力を高め、相手への配慮ある対応、して良いこと、いけないことの判断をしっかりとすることを主眼に取り組んだ。問題事象に対するタイムリーな適宜指導を軸に日常的に取り組んだ。問題事例等は部会にて検討、指導の方途を探った。

#### (4) 「ノーゲーム・ノーメディアデー」の推進

本校では、携帯電話保有率はさほど上がってはいないが、プレイステーションポータブル P S Pをはじめとしたゲーム類の浸透はかなりに上っている。そこで、昨年度末から取組を検討し、今年度より保護者の協力を要請するかたちで取り組み、家庭の関心を高めたいと考えた。毎月15日を「ノーゲーム・ノーメディアデー」として設定、担任の指導や呼びかけを行い、取組状況をアンケートにより点検する。学校からは、ゲーム類の脳(前頭前野)への影響の資料配布や講演会を実施、また、ゲームのレーティングに関する情報も提供し、関心を高めた。現在単純なアンケートで64.9%程度の取組率となったが、学校の働きかけが弱まれば、その率は減るだろうと考えられる。月1回の取り組みでは、各家庭に十分な浸透は難しい面もあるが、地道な取組としたい。

#### (5) 月別指導目標(月別重点)の明確化と達成度の検証

以上は日常的な指導が中心だが、加えて、生徒指導部と教務部が連携して一年間の見通しの中で望ましい児童の育成の観点から学習と生活に係る月別指導目標を設定して、職員会議等で取組を検証した。

#### (6) 教育相談会の実施

教育相談会を全児童児童、全保護者を対象にそれぞれ3日ずつ設定して取り組んだ。児童へは、親和的な雰囲気の中で日頃の悩みや克服すべき課題等を話題にし、励ましやアドバイスを与えつつ、担任との一体感を増すことをねらった。また、保護者面談では、担任との良好な関係を築きつつ、子どもの学校や家庭での様子を話題にしなが、子育ての悩みや担任の願い等をカウンセリングマインドをもって面談する活動として取り組んだ。

#### (7) 特別支援教育部や関係諸機関との連携

特別支援教育への研修を深めながら、問題となる行動がADHDや高機能障害等、児童の「困り感」から発しているものかを判断しながら、指導に取り組む態勢を整えた。必要に応じて医師、家庭児童相談員、教育相談指導員等、専門的な立場の方々と連携して取組を強めた。



## 〈2〉中学校

### 小規模校の特性を生かした生徒指導

安中市立松井田北中学校教諭 岩井 けい子

#### 1 地域・学校の概要

本校は安中市の北西部に位置した農山村地域にあり、自然豊かな環境に恵まれている。高台に位置し、登下校はほとんど坂道で体力作りにも適している。

保護者の職業は会社員や公務員が多く、大部分が両親ともに働いており、価値観の多様化とともに、家庭教育の在り方が問われるようになってきている。過疎地域のため、学級数は戦後9クラスあったが、現在では3クラスに減り、今年度の生徒数は44名（男子18名、女子26名）、PTA会員（保護者）39名、職員は常勤12名、非常勤6名である。生徒の数が少ない代わりに一人一人が活躍する場面がたくさんあり、学習も少人数の中できめ細かな指導が行われ、学習意欲の向上に力を入れている。また、細野地区といわれている本地域は小・中学校の結びつきが強く、細野小PTA・北中PTA・体育後援会の3つの会がいつも一緒に活動し（三会と称する）子どもたちの健全育成に大きな力となっている。

#### 2 生徒指導の目標、努力点

##### （1）生徒指導目標

- 思いやりと逞しさを持ち、より高い目標の達成に向けて努力しながら生き生きと学校生活を送ることができる生徒を育成する。
- ・豊かな心をはぐくみ、望ましい人間関係を育て、集団生活への適応と自己教育力を養う。
- ・進んで学習や運動に取り組み、全体に奉仕できる実践力を養う。

##### （2）生徒指導の努力点

- ①生徒自らがよく考え、表現できるような授業展開を実践する。
- ②異学年集団による活動を実施する。
- ③一人一人が活躍できる活動（生徒会、部活動等）を実施する。
- ④地域の環境美化活動を実施する。
- ⑤生活アンケートや全職員による情報交換を定期的に行う。

#### 3 具体的な取組

##### （1）基礎学力、自己表現力の向上

- ①北中独自の「学習の手引き」を作成し、教科毎に課題や学習方法を明記。生徒の自主学習等に役立っている。
- ②「自己表現力の向上を目指す指導方法の研究」を行い、研究授業等で教師の授業力の向上を図っている。
- ③数学、英語、体育を中心にTTを行い、基礎学力の向上を図っている。

##### （2）異学年集団による活動

###### ①勤労生産学習（総合的な学習の時間）

地域の人の協力のもとに、縦割り班を作り、学校の畑を耕し、野菜を育てている。畑の半分には夏野菜を、残り半分には、サツマイモの苗を植え、秋に収穫し、焼き芋集会を行う。生徒にとって、とても楽しみな行事となっている。

###### ②全校合唱（音楽・総合的な学習の時間・夏休み等）

合唱コンクール、町の中学校音楽会、退任式、卒業式等で北中生として合唱する。授業だけでは覚えられないので、夏休み中の部活が終わった後に、全校生徒でパートを中心に練習

を行う。(休み中8回ぐらい) そのおかげで、北中生らしい心のこもった合唱ができた。

### ③文化祭(北友祭)企画(総合的な学習、放課後)

自分たちで計画立案した企画を、どのように表現したら来場者に喜んでもらえるかを考え実践する。今年度は8つの企画を行い、教育的で意義のある催しができた。

### ④榛名高原学校(1・2年合同合宿)

2年生を中心に、全ての活動において1年生と共に計画、準備を行い、充実した楽しい合宿をすることができた。

## (3) 一人一人が活躍できる活動

### ①生徒会活動

- ・環境美化委員会：毎週木曜日の朝を「クリンクリンの日」と決め、通学路のゴミ拾い活動を行う。
- ・体育委員会：毎週金曜日の朝を「ランランの日」と決め、校庭を走り体力作りを行う。
- ・月1回「放課後マラソンの日」と決めて、全校生徒がマラソンを行い、毎回記録を取る。
- ・運営委員会：定期的に朝玄関に立ち、あいさつ運動を実施する。月一回の生徒集会では、それぞれの時期に合わせた内容を企画し、一人一人が発表する機会を設けるようにしている。
- ・文化祭(北友祭)学年準備

文化祭を盛り上げるために、学年ごとに役割分担を行い、工夫を凝らして取り組む。



(3年生：文化祭の門作り)



(1年生：文化祭テーマ、スローガンを掲示)



(2年生：一人一人の合唱への思いを掲示)

### ②部活動

生徒の減少に伴い部活数を減らし、全員が活躍できるようにした。現在、男女2ずつ合わせて4部活。

### ③地域の環境美化活動

「ふるさとセンター」の池・水路の掃除、除草を、PTAと合同で廃品回収や校内美化活動を行う。

## 4 今後の課題

- ①きめ細かな指導が、ややもすると遅しさを欠く結果となっていることを踏まえ指導にあたる。
- ②生徒が、学校カウンセラーと話す機会をできるだけ作り、問題の早期発見を図る。
- ③職員同士の情報交換を密に行い、歩調を合わせた生徒指導を行う。

## 第 2 部

### へき地学校教員研修のあゆみ



群馬県へき地教育研究大会 開会行事



群馬県へき地教育研究大会 研究協議

# I 平成20年度へき地学校教員研修の概要

群馬県へき地教育研究連盟研究部長

高崎市立倉渕川浦小学校長 **高橋 和幸**

## 1 平成20年度へき地学校教育

平成20年度の県内のへき地学校は、休校中の3校を含め57校、児童生徒数4,448名、教職員数637名である。へき地学校の児童生徒数の占める割合は、県内全体の2.5%で、昨年と比べると校数は3校減、児童生徒数で、365名の減、教員は33名減である。

へき地教育研究連盟としては、へき地学校の小規模の利点や地域との緊密な連携を生かし、子供たちに「生きる力」を身につける教育、個に応じた教育、豊かでたくましい心を育てる教育を推進してきた。

## 2 活動方針

(1) 研究主題「ふるさとに誇りを持ち、新しい時代を拓く、心豊かな子どもの育成」

(2) 運動方針

- ① 本連盟は、県教育委員会、市町村教育委員会、へき地教育振興会等と連携を密にし、へき地教育の充実・発展に努める。
- ② 総務・調査・研究部を置き、広報活動・研究事業の推進、研究成果の収録・発行等を実施する。
- ③ 本連盟は諸活動を通して、へき地学校教職員の連帯・親睦・指導力の向上・教育の諸条件改善に努め、へき地教育の一層の充実を図る。

(3) 活動内容

- ① へき地関係教育諸情報の伝達と、へき地教育についての理解を深める広報「県へき連」を発行する。
- ② へき地教育ブロック別実践研究集会等を開催し、研究実践を深め、へき地教職員の資質の向上を図る。
- ③ へき地教育研究大会を県教育委員会と共同開催し、へき地学校における経営上の諸課題や指導上の諸課題について研究・協議し、へき地教育の充実・振興に資する。
- ④ 県教育委員会及び、県へき地教育振興会と連携・協力し、へき地教育の諸問題と研究実践を収録した「板木」を継続発行し、へき地教育の一層の充実と発展に資する。

## 3 研究、研修の概要

(1) へき地教育ブロック別実践研究集会

- ・ Aブロック（多野・甘楽・安中・高崎・前橋） 8月8日（金）全体会・地域研修
- ・ Bブロック（吾妻） 8月7日（木）全国へき地教育研究大会報告・講演会
- ・ Cブロック（利根・沼田・渋川） 8月5日（火）講演会・農業体験

(2) 第57回全国へき地教育研究大会 山梨大会 10月16日（木）～17日（金）

(3) 第57回群馬県へき地教育研究大会 11月18日（火）高崎市：倉渕中央小学校・倉渕中学校

(4) 広報「県へき連」第64、65号発行

(5) 群馬県へき地教育研究資料「板木」第57集発行

## II 第57回群馬県へき地教育研究大会

### 〈1〉概要

- 1 **趣 旨** へき地学校の経営実践や授業実践について研究協議を通して、群馬県へき地教育の改善・充実に資する。
- 2 **大会テーマ** ふるさとに誇りをもち、新しい時代を拓く、心豊かな子どもの育成  
～へき地・小規模校の特性を生かした学校・学級経営と  
学習指導の深化・充実を目指して～
- 3 **期 日** 平成20年11月18日(火)
- 4 **会 場** 【全体会・班別研究協議・公開授業・授業研究会】高崎市立倉渕中央小学校  
【公開授業・授業研究会】高崎市立倉渕中学校

### 5 日 程

9:30	10:00	10:40	11:00	12:15	13:40	14:45	16:15
受付	開会行事 (倉渕中央小)	全体会 全へき連、関プロ、 県へき連報告確認等	班別研究協議 ・小学校I班 ・小学校II班 ・中学校	昼食 休憩 移動	午後 受付	公開授業 ・倉渕中央小学校 ・倉渕中学校	授業研究会 ・小学校 低学年 ・小学校 中学年 ・小学校 高学年 ・中学校
		10:35		13:15		14:25(30)	

### 6 開会行事・全体会

### 7 班別研究協議

	司 会	提 案 者	記 録	世 話 係	指 導 助 言 者	場 所
小学校 I 班	坂本小校長 中津瀬 隆	上後閑小校長 瀧澤 邦夫	細野小校長 竹内 亨	滝窪小校長 松岡 久登	吾妻教育事務所 指導主事 小林 克典	図工室
小学校 II 班	多那小校長 富澤 辰男	利根東小校長 大谷 明	片品北小校長 青木美穂子	片品小校長 小林 兵衛	利根教育事務所 指導主事 松井 秀幸	図書室
中学校	高山中校長 木暮 秀利	孺恋西中校長 山野 邦明	長野原西中校長 中澤 和則	草津中校長 篠原三千雄	西部教育事務所 指導主事 永田伊知郎	音楽室

### 8 公開授業・授業研究会

会 場	教 科	学 年	単 元 名	指 導 者	場 所
倉渕中央小	国語	2年	「さけが大きくなるまで」	教諭 石原 安奈	2年教室
	社会	3年	「人々の安全を守る」	教諭 岡田 和真	3年教室
	総合	5年	フィンランドメソッドで学ぼう 「説明文の読み方と書き方」	教諭 萩原 美穂	5年教室
倉渕中学校	国語	1年	対話する力「少年の日の思い出」	教諭 塚越 一穂	1年教室
	理科 数学	1年	「物質の姿」	教諭 塚越 裕喜	理科室
		2年	「平行と合同」	教諭 井口 高志 堤 宣裕 山科 真	2年2組 やまゆり② 2年1組
	音楽	3年	器楽(吹奏楽)「パイルーツ・オブ・カリビア ン」	教諭 小松 淳	音楽室

	司 会	記 録	世 話 係	指 導 助 言 者	場 所
小学校 (低学年)	万場小校長 新井 松江	万場小教諭 茂木 宏隆	倉渕東小校長 関根 和子	利根教育事務所 指導主事 松井 秀幸	図工室
小学校 (中学年)	上野小校長 平林 茂	上野小教諭 新井 健一	宮沢小校長 小林 勝	吾妻教育事務所 指導主事 小林 克典	図書室
小学校 (高学年)	西牧小校長 新井 淳司	西牧小教諭 竹田 鎮則	上後閑小校長 瀧澤 邦夫	中部教育事務所 指導主事 矢島 貢	音楽室
中学校	甘楽三中校長 茂木 学	甘楽三中教諭 平石 美香	松井田北中校長 小坂橋善一	西部教育事務所 指導主事 永田伊知郎 義務教育課 指導主事 飯泉 尚士	視聴覚室

## 〈2〉提案要旨

### 《小学校1班》

## 小規模・少人数校の特性を生かした学校経営の推進

安中市立上後閑小学校長 瀧澤 邦夫

### 1 学校の概要

本校は、安中市の中心部から北西に約10キロほどの位置にある。校区の北、西、南の三方を山に囲まれた山間部で、ほぼ西から東にかけて後閑川が中央部を縦貫して流れるなど豊かな自然に恵まれた農山村地帯である。世帯数は百数十、人口は約400人ほどで、高齢者がしめる割合は非常に高くなっている。今年度の児童数は、1年1人、3年2人、4年2人、5年3人、6年3人の11人、学級数は、単学級1、複式学級2、特別支援学級1の4学級である。

児童は卒業すると遠距離にある約700人近い大規模中学校に進学する。そのために、進学後の大きな環境の変化に順応し有意義な学校生活ができる資質・能力を育てることが課題となっている。また、自主的に行動することや自らの考えや思いを表現できる力の育成も課題となっている。これらの課題を解決するため、様々な取組を行っている。

### 2 実践の概要

#### (1) 他校との交流学习

各学期に1回、交流学习週間を位置づけ、近隣の学校に出かけて交流学习を行っている。交流学习では、訪問した学校の同学年のクラスの授業に参加したり、休み時間を一緒に過ごしたりしている。学習の進捗の問題もあるが、児童にとっては、将来同じ中学校に進学し同級生となる児童との交流は、大きな刺激となっている。

#### (2) 小中音楽発表会への参加を生かして

旧安中地区で行われている小中音楽発表会では、少人数ながらも全校児童でハンドベルの演奏や合唱を披露している。文化センターの大ホールのステージを使って行われる音楽発表会で、800人近い観衆の前で自信を持って発表できるよう、夏休み中から練習の時間を位置づけ取り組んでいる。今年度は、10人で大ホールに大きく響き渡る合唱や演奏することができた。児童にとっては、自分自身を表現する絶好の機会であり、その体験は大きな自信になるものと思う。

#### (3) 学習の成果を全校の場で発表

少人数の学習では、話し合いの場面や学習の成果を発表する場面で聞く相手がいつも限定されてしまう。そこで、全員が集まる全校給食の時間や朝の学びの時間などで、他の学年の児童にも朗読や暗唱、調べ学習の結果などを発表する等の活動を行っている。

#### (4) 校内研修における取組

校内研修では、学習スキルの定着を図るとともに、単元末などには振り返り作文として、学習した内容を表現させて学習の定着を確認している。学年により徐々にその量や内容も深まりが見られるようになってきている。これにより、学習の理解を確かめるとともに表現力の育成に大きな役割を果たしている。

### 3 成果と今後の課題

(1) 少人数だから、自ら発表するチャンスは多い。また、様々な機会を生かし取り組んできた結果、自信をもって自らの考えや思いを表現する姿が見られるようになってきた。

(2) お互いの発表を交流し合い、自らの思いや考えを深めるという点では、どうしても限定され、深まった学習ができない現状も見られる。他校との交流学习では移動の問題や学習進捗の問題などがある。これらを解決し、貴重な経験の場の確保を図ることが必要である。



## 《小学校2班》

# 確かな学力と豊かな心を身に付けた児童の育成

～ レインボーアクションを通して ～

沼田市立利根東小学校長 大谷 明

### 1 学校の概要

本校は沼田市の北東部に位置している。周囲は1000mを越える山々に囲まれ、その谷あい  
を栗原川と片品川が流れ、河川沿いに集落を形成している。上毛カルタで詠まれている“滝は吹  
割片品溪谷”の滝が近くにあり自然豊かな地域である。保護者や地域の人たちは温かい目で見守  
ってくれており、協力を惜しまない。今年度の児童数は57名、6学級の小規模校である。

### 2 学校の課題と設定理由

児童はあくせくすることなくのんびりと過ごしてしまいがちであったり、引っ込み思案になり  
がちで、自信をもって事に当たる様子を見る場面が少ない。時には、自分さえよければとか相手  
を傷つけてしまうような言動や行動も見られる。そこで、児童の学力と豊かな人間性の向上を図  
ることを目的として、市で示した“へき地教育七つの実践～レインボーアクション～”の具体的  
事項を通して解決を図ろうと考えた。つまり、少人数学習と個別指導の徹底・縦割り活動の充実  
・地域、保護者との連携・交流学校の推進により、確かな学力と豊かな心の育成を図ることがで  
きることを考え、本主題を設定した。

### 3 実践の概要

#### (1) 少人数学習と個別指導の徹底

授業者交換等により、多くの教師が個々の児童とかかわる。また、学習の定着を図るため振  
り返り学習を朝活動後や夏期休業中に実施したり指導計画に位置づけたりする。さらに、見取  
り表を活用した指導法を校内研修で取り上げ、個に応じた支援の研究を推進する。

#### (2) 縦割り活動の充実

清掃活動を低中高学年4～5名の班編成で1週間毎に担当箇所を替え、12週を1サイクル  
で実施する。また、集団登校を毎朝地区毎に、下校は前期が週1回、後期は週2回実施する。  
その他、委員会活動・運動会や児童集会での団活動・読書活動・鼓笛を縦割りで実施している。

#### (3) 地域、保護者との連携

補助事業として、資源回収・滝クリーン活動・独居老人との交流・福祉講演会を実施。また、  
植栽活動・読み聞かせ・菊づくり・リンゴ学習・米づくり・踊り・絵画等の指導を受けている。  
その他、地域公共機関や県主催体験学習などにより協力をいただいている。

#### (4) 交流学校の推進

市内の異なる環境の学校が互いに「伝えあい、学びあい」ながら、共に高めあうため、姉妹校  
となり交流活動を行う。締結式・水泳記録会、陸上教室、音楽祭、卒業祝う会等での挨拶や応援  
・絵画等の作品を交換し展示・総合学習の時間にまとめた資料の交換を行っている。

### 4 まとめと今後の課題

学力向上に向け、個に着目した取組により児童個々の課題が明確になり、対応することができ  
た。また、豊かな心の育成に向け、学習活動や行事等の工夫により体験を通して積極的な行動や  
相手を思いやる様子が、多く見られるようになってきた。あわせて必要な課題も見えてきた。

今後、さらに充実した取組とするために、全校一斉体制による全児童への指導を継続深化し、  
年間諸計画やPDCAサイクルの見直しを図るとともに、社会状況の変化などを加味した中で小  
規模校のよさを生かした教育を推進していきたい。また、レインボーアクションを生かしつつ、  
よりよい取組を考えていきたい。

## 《中学校班》

### 小規模校の特性を生かした「豊かな人間性」を育むための体験活動

嬭恋村立西中学校長 山野 邦明

#### 1 学校の概要

本校は、浅間山・四阿山の山麓に広がる標高1000mを超える高原で特産の高原野菜を生産する農山村地域に位置し、生徒の半数は学校より5km以遠に居住している。本校の生徒数は、187名で普通6学級・特別支援2学級の小規模校だが、吾妻郡内では13校中2番目に大きい規模の中学校である。

#### 2 本校の課題

地域社会の変化にもかかわらず、生徒は全体的に純朴さと勤勉さを失うことなく、明るく伸び伸びとした学校生活を送っている。係活動や奉仕活動・諸活動等に一生懸命取り組む姿が見られる。しかし、その一方で学習や物事に対する取組に主体性や積極性がやや不足しているという課題を残している。

そこで、人と人とのかかわりを大切にし、自ら考え判断し、学んだことを生かしたり自らの生き方を考えたりできる豊かな人間性を体験活動を通してはぐくもうと考えた。

#### 3 具体的な取り組み

##### (1) 平和学習の推進（命の大切さを学習）

1年生から3年生まで、3年間の関連性を持たせた「平和学習」を実施している。調べ学習や発表等を通して生徒の自主的な活動の推進を図るとともに豊かな心をはぐくむ。

##### 【1年生】（被害者の視点からの平和学習）

☆戦争被害について調査及び学習成果の発表（学校開放日発表）

☆都内の戦争に関連した記念館や展示場を訪問（昭和館・遊就館・平和記念館など）

##### 【2年生】（加害者の視点からの平和学習）

☆戦争の加害者としての日本について、インターネットを中心にした調べ学習を実施。

☆加害者の視点からの学習として体験講話の場を設定。

##### 【3年生】（両者の視点からの平和学習）

☆平和学習の3年間のまとめと修学旅行における体験活動の実施

☆英語学習も取り入れた平和学習の発表（文化祭開催時）

##### (2) 職場体験学習の実施（地域との交流）

2年生を対象に職場体験学習を実施し、実際の仕事の内容を体験し将来の自分の仕事について考える機会とさせるとともに人と人との関わり大切さについて気づかせる。

☆事業所数：約30カ所

☆実施期間：2日間

##### (3) 地域清掃活動の実施（生徒会主催）

全校生徒で通学路沿線のゴミ拾い活動を通して地域美化に貢献するとともに、村を愛する心を身につけさせる。

☆群馬県より有料道路愛護団体表彰受賞

#### 4 成果と課題

(1) 3年間を通じた平和学習で、生徒は命の大切さや平和のありがたさを感じるようになってきている。また、発表も年々充実したものになってきている。

(2) 職場体験で学んだ相手のことを考える姿勢は、校内の生活で生かされている。

(3) 地域清掃活動では、年々ゴミの減少が見られるように活動の成果が現れている。また、優良道路愛護団体表彰受賞など生徒たちの活動も認められ、自主的な活動の励みになっている。

(4) 新教育課程への移行により、総合的な学習の時間の削減は必至である。今後、同様な活動を継続する場合、次年度以降の年間指導計画について再検討する必要がある。

### 〈3〉公開授業・授業研究会

#### 高崎市立倉渚中央小学校

#### 1 学校の概要

本校は、高崎市倉渚町にある3つある小学校のうちの1つである。平成18年1月に高崎市と旧群馬郡倉渚村が合併し、3年を経過しようとしている。倉渚町は、榛名山西麓に位置し、西端は長野県に接し、北端は東吾妻町に接している。烏川の源流を有し、浦安市との水源林契約をするなど上・下流の交流も始まっている、風光明媚な山間へき地である。現在の児童数は82名で、通常学級6、特別支援学級1計7学級である。

#### 2 研究大会へ向けての学校の取組

本校では、平成20年度校内研修の研究主題を「共に学び合い、進んで自分の思いを表現する児童の育成ー考える力に視点をあてた、読むこと・書くことの指導法の工夫を中心としてー」として、国語科を中心に、全教科において研究主題を学年の発達段階や教科・領域の特性を生かしつつ、各学年ブロックの目指す児童像の具現化をめざして研修を進めてきた。本研究大会に向けては、この研究主題を念頭に置いて、低・中・高のそれぞれのブロックから2・3・5年の公開授業を行うこととした。教科等は、それぞれ、国語、社会、総合的な学習の時間を行った。特に、5年の総合的な学習の時間では、本校で平成19年頃から研修を進めていた、いわゆるPISA型読解力や表現力を高めるための手立てとして、フィンランドの教科書を使った「フィンランドメソッド」を取り入れてみた。

#### 3 授業公開・授業研究会の様子（指導案も含む）

(1) 小学校低学年部会（国語科） 授業提案者 第2学年 指導者 石原 安奈

2年国語科「じゅんじょやようすを考えよう」教材：教育出版2年（下）「さけが大きくなるまで」における授業公開でした。主な授業の展開は以下の通り。

授業の視点として、「前時までのワークシートを活用したこと」や「さけになったつもりで成長の様子を書き、動作化を取り入れて発表したこと」が、時・場所・大きさや様子を表す言葉に着目し、さけの成長過程を読み取ることができたか、をあげて本時の学習を行った。

○本時のねらいは、時・場所・大きさや様子を表す言葉に着目し、さけになったつもりで成長の様子を書く活動を通して、成長過程を読み取ることができる。

○本時の展開の一部

時間	学習活動	教師の支援・指導及び留意点	評価項目
10	1. 本時の学習のめあてをつかむ。		
	めあて	さけになったつもりで、せいちょうをたしかめよう	
	2. 音読をする。	・時・場所・大きさや様子を表すことばに気を付けながら段落⑥⑦⑧⑨⑩の音読をさせる。(一人読み)	
30 (10) (10) (10)	3. さけの成長過程をワークシートに書き発表する。	・前時までのワークシートを活用させることで、大切なこと（時・場所・大きさや様子）を落とさず書けるようにする。 ・書いた内容を発表させ、その後書いた内容を動作化させる。	【読】時・場所・大きさや様子を表す言葉を使って、さけになったつもりでさけの成長を書

		・発表者の内容に時・場所・大きさや様子があるか、さけになったつもりで書かれているかに注意しながら聞かせる。	くことができる。 (ワークシート・発表表)
【予想される児童の答え】			
段落⑥			
ぼくは、まだ海に行かないんだ。1か月ぐらいの間は、川と海のまじった川口でくらすんだよ。その間にしんちょうが10cmぐらいになるんだよ。			
段落⑦⑧			
体がしっかりしてくると広い海で生活するんだ。海にはたくさんの食べ物があるんだ。ぼくは、それを食べてぐんぐん大きくなるんだよ。でも、海にはさめやあざらしがいて、食べられてしまうこともあるよ。			
段落⑨⑩			
ぼくは、これから3・4年も海をおよぎまわるよ。そして、たまごをうむ時には、もとの川へかえるんだ。			
5	4. 一斉音読をする。	・さけの成長過程を思い浮かべながら音読をする。	

○授業研究会の協議の概要

全体的な感想として、2年生でも、基本的な学習習慣が良く身に付いて最後まで集中して良くできていた。視点について、「さけになったつもりで」ワークシート等を書くことが、能動的な活動になっており、時・場所等の「情報の取り出し」がうまくいき、その後の「熟考」にあたるワークシートの記入が自分の言葉で単なる本文の丸写しに陥らないことにつながった。発表も何回か確認しながら発表させ、「活用」と「習得」をしっかり念頭においた授業であった。課題として、授業の進め方を同じパターンから変化をもたせる。一斉読みと範読の差をつける、ゲストティーチャーを迎えるのも活性化につながる。



(2) 小学校中学年部会（社会科） 授業提案者 第3学年 指導者 岡田 和真

3年社会科「安全なくらしを守る（火事からくらしを守る）」における授業公開でした。主な授業の展開は以下の通り。

授業の視点として、「消防車が火事現場に向かう場合、どこで・どのような消火作業をするかを考えていくことで、防火設備の必要性や日頃の訓練があることに気付けたか。」「ワークシートへ気付いたことや消防隊員に宛てた手紙を記述することにより、安全なくらしを守っている人々の工夫や努力が自分たちの生活と深くかかわっていることに気付けたか。」をあげて本時の学習を行った。

○本時のねらいは、火事が発生したときの消火活動にはどのような工夫があるのかを作業を通してまとめられる。（火事現場での消防車の配置や消防士の動きを考え、消防設備・日常の訓練との関係を指摘することができる）

○本時の展開の一部

過程	学 習 活 動	時間	支援・指導、及び留意点	評価項目
	○火事の消火活動には、どのよう		・第1時で設定した課題の中から、「どの	

つ か む	<p>な工夫があるかまとめる。</p> <p>消防車は火事現場のどこで・ どのように消火活動をするの か？</p> <p>・火災の模擬地図を用いて、消防車の配置を予想する。</p>	5	<p>ように火事を消すのか」を中心に考えることを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・火災現場までの到着時間を一つの資料にして興味を喚起させる。</li> <li>・およそ1分で出動できる体制があることを確認し、効率よく動くことが消火活動に大切だという意識をもたせていく。</li> </ul>	
追 究 す る	<p>○効率の良い消火は、地図上のどこに5台の消防車を配置するのが良いかを予想し、発表する。</p> <p>消防車をどこに止めたらいいのか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理由を添えた発表を行い、合理的な配置の思考を深めていく。</li> <li>・発表した内容が実際の場面ではどうなっているのかを模擬地図上に掲示し、確かめていく。</li> <li>・消防車の配置には一定のルールがあることを理解する。</li> </ul> <p>・自分たちの地域にも防火設備が整っているのかを調べようとする課題意識をもつ。</p>	20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人に模擬地図を配布し、5台の消防車の配置を考えさせ、理由が述べられる時間を設定していく。</li> <li>・発表された配置について、付け足しや反論の場を設け、意見交換を広げさせる。</li> <li>・自分の予想と照らし合わせ、相違点について疑問を抱かせていく。</li> <li>・火災現場を取り囲むような状態であることを知って、火災現場では一定の決まりがあることに気付かせていく。</li> <li>・消火に当たる人は事前に防火施設の所在を知っており、効率よく消火活動に当たるための配置が必要であることに気付かせる。</li> <li>・消火栓や防火水槽の写真を提示し、地域にはどのような設備がどこにあるのかを調べようとする意欲をもたせていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消火活動と消防水利との関係を消防車の配置から考え、指摘できている。(ワークシートへの記入や発言)</li> </ul>
ま と め	<p>○火災時の出動時間・火災現場での消防車の配置・チームでの消火活動について、ワークシートに記録し、消火活動に当たる消防隊員に宛てた手紙を書く。</p> <p>・手紙の発表をする。</p>	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートの記入では、火災発生時の出動時間・消防車の配置・チームで消火に当たることへの工夫の程度・日々の訓練の程度を評価する形で、消防隊員に向けた手紙を書きやすくさせていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消防隊員に向け、工夫や苦勞に触れた手紙が書けたか。</li> </ul>

○授業研究会の協議の概要

全体的な感想として、子供たちが、生き生きと活動しており、学びの中核である「驚き」をもって授業に取り組んでいた。視点について、「人々の工夫や努力に目を向けさせて気付かせる」ために文章だけでなくワークシートや資料の提示の工夫で考えさせる活動がふんだんに用意されていて、興味・関心・思考・判断等の要素が入り手立てがうまくいった。作文も知識・理解をもとめるもので、「活用」と「習得」を意識した授業であった。課題として、手紙を見学に行く前に書かせた意図は何か、見学の評価の観点は何か等をしっかりもつこと、また、いきなり見学に行くよりは、事前調べをして行けばインタビューにも熱がはいるのではないか。



(3) 小学校高学年部会（総合的な学習の時間）授業提案者 第5学年 指導者 萩原 美穂

5年「トライあるタイム学習」「説明文の読み方と書き方（フィンランド国語教科書 小学3年生）」における授業公開でした。主な授業の展開は以下の通り。

授業の視点として、「フィンランド国語教科書と挿絵を提示し、図鑑の読み取り方について、考える活動を行う。」「モルモットの特徴や飼い方について、いくつかの分類に分け、テキストから読み取れることをカルタにまとめ、それをもとに文を作る。」ことにより、児童は想像を広げたり、根拠や理由を明確にして考えることにつながったかをあげて、本時の学習を行った。

○本時のねらいは、「モルモットの飼い方について、必要な情報を使ってカルタにまとめ、それをもとに文を作ることができる。」

○本時の展開の一部

時間	学習活動	予想される児童の反応	教師の支援及び留意点 ■評価項目
10	○文章の題名と見出しを確認する。 ○本文を音読する。まとまりごとに段落読みする。	○「野生のモルモット」など、見出しは太い文字になっている。	○見出しは文章のまとまりについている名前であることを確認する。
15	めあて① モルモットの飼い方について、カルタにまとめましょう。 ○カルタの書き方を知る。 ○カルタを作る。 ○文章や写真と解説から読み取れるキーワードをたくさん書けるとよい。枠は自分で増やしてもよい。	○意見交流や板書をもとに、モルモットの飼い方についてえさ、かご、毛の手入れなどの項目ごとに、キーワードに着目して書く。 ○えさはわくが足りないな。 ○野生のものかペットかで違ってくるね。	○カルタ作りのポイントを具体的に説明する。 ■意見交流や板書をもとにカルタを書いている。 【発言・ワークシート】



	めあて②		
10	カルタをもとにして、3つのキーワードを使って、モルモットの毛の手入れについて文章にまとめましょう。		
	○カルタをもとに文章を書く。	○キーワード3つはどれを使うといいかな。 ○毛の手入れができない場合も書くのかな。	■カルタをもとに文を書いている。 【ワークシート】
	書いたことをグループ内で発表しましょう。		
10	○発表の仕方を知る。 ○モルモットの毛の手入れについてグループ内で発表する。 ○良かった点や改善点を発表し合う。 ○全体で、まとめとして2～3名発表する。	○モルモットの毛の手入れのしかたで大切なことは、… ○キーワードが入っていてわかりやすい文になっていると思います。 ○洗いすぎないことを入れた方がいいと思います。	○発表の仕方についてのポイント、話し合いのルールを説明する。 ○キーワードが3つ使われているかという視点で発表を聞かせる。 ○わかりやすく簡潔な説明の文章を紹介する。

○授業研究会の様子

全体的な感想として、学級の子供たちと先生の関係がよく、子供たち同士も「～さん」で呼び合うなど言語環境がよい。教師も子供たちも伸ばし合っている。視点について、「フィンランドメソッド」を使うことで、根拠や理由を明確にして考えられる読解力を高められたかをねらいとしたが、手法として、「フィンランドメソッド」を総合的な学習の時間で扱っていることへの質問が多く出された。中央小の取組は「フィンランドメソッド」を研究することが中心でなく、中央小の課題である読解力を高めるために、「考える力」を育てる「フィンランドメソッドの手法」を取り入れて、国語科を中心として他教科でも行っている。総合的な学習の時間では、時間をかけて図やグラフから情報の取り出し、この情報から見方や考え方を基に発表していく力を身に付けさせるねらいで取り入れている。課題として、総合的な学習の時間は自ら課題を見付け解決していくもので、活動そのものが目的になってはいけない。表現力をつけるための発表は、本来のねらいを見失わないように気を付ける。本時は3つのキーワードから作文したが、なぜその3つなのか理由を発表できるとよかった。カルタを書く時間が長かったので、時間配分を工夫し、発表の時間を取りたかった。



## 高崎市立倉渕中学校

### 1 学校の概要

本校は、高崎市西北部の山間地域に位置する生徒数122名、学級数は普通学級4学級、特別支援学級1学級、計5学級の小規模校である。現在、3年前の校舎建築に続いて、老朽化した体育館の建て替え工事を行っているところである。生徒は明るく素直で、保護者も総じて学校に対して協力的である。

### 2 研究大会へ向けての取組

本校では、校内研修の研究主題を『意欲的に学習に取り組める生徒の育成』、副題を『―「できた」「わかった」を実感しながら、学び合いを深めていく授業展開の工夫―』とし、授業改善を中心に研究を進めてきた。この取組を踏まえ、本研究大会において多くの方に授業を観ていただき助言等をいただくことで今後の研究をさらに深めることができればと考え、全4学級で授業を公開することとした。実施教科は、1学年は少人数指導で、1学級をEASTとWESTの二つに分け、それぞれ国語と理科を行い、2学年は数学の習熟度別指導で、2学級を3つ（基礎、標準、発展）に分けて行うこととした。3学年は本校の特色ある取組として、県教育委員会の「ぼくたちわたしたち学校自慢」で受賞した「響き合う みんなで創る 吹奏楽」（一人一楽器）の実践の中心である器楽授業を公開することとした。

### 3 公開授業の概要

(1) 国語（1年EAST） 単元名「対話する力」（教材名『少年の日の思い出』）

指導者 塚越一穂

① 本時のねらい 「一度起きたことは、償いのできないものだ。」という主題を正確にとらえさせる。

② 授業研究会



〈授業説明〉「自分のチョウチョを指でこなごなに押しつぶしたときの『ぼく』の気持ちを読み取る。」という中心課題について、校内研修を踏まえて、グループ学習や学び合いを取り入れ、ワークシートを活用した授業を行った。その結果、一斉授業の中では発言できない生徒も意欲的に発言ができるようになった。また、一斉授業では少数意見は取り扱われにくいのが、今日の授業では皆自分の意見がしっかり持てたと思う。グループ学習では、その後の意見の練り上げが問題となるが、活発な意見交換により

盛り上がりが見られた。次時に書いてくる日記にその成果が表れることを望む。

〈指導助言〉グループ3人というのは話しやすくよい。難しいのはオープンエンドではなくて、どちらかに方向をもっていかなくてはいけない点であるが、今日の授業ではある方向が出てきているのがよかった。教師のスタンスも大事である。また、普段発言の少ない生徒が核心をついたよい発言をしていたのも大きな成果である。

(2) 理科（1年WEST） 単元名「物質のすがた」（小単元『物質の状態変化』）

指導者 塚越裕喜

① 本時のねらい 「ろうの状態変化（液体→固体）によって、ろうの体積は変化するが、質量は

変化しないことを見いだす。」

## ② 授業研究会

〈授業説明〉「ろうの状態が変化すると、体積と質量は変化するだろうか。」という本時の課題に対して、実験及び観察を通してより理解が深まると考え、「一人一実験」と「グループでの学び合い」という2つの要素を取り入れた授業を行った。その結果、質量は変わらず、体積は変化した、という結論を得られた。今後さらに望ましい学び合いについて考えてみたい。



〈指導助言〉「一人一実験」ということで、生徒が自分自身の実験としてとらえていた。教具の工夫も大変効果的であった。課題追求の場面で、より多様な考えができる助言ができれば理想的である。

### (3) 数学(2年) 単元名「三角形と四角形」(二等辺三角形)

指導者 (標準コース)井口高志、(基礎コース)堤 宣裕、(発展コース)山科 真

① 本時のねらい 「二等辺三角形の定義(2つの辺が等しい三角形)をもとにして、二等辺三角形の他の性質を見だし、それを筋道を立てて説明する方法を考える。」

## ② 授業研究会

〈授業説明〉本校の数学では学年を「基礎コース」「標準コース」「発展コース」の3つに分けて習熟度別指導を行っている。分け方、授業形態は学年によって異なっている。3つのコースのうち、一番能力に幅のある標準コースを数学の教員が担当している。



2年生は集中して取り組めるが、積極的に発言したり、自分の考えを述べたりする姿勢には欠ける。今日はいつもとより自分の意見をしっかり持って取り組めた。

〈指導助言〉自力解決の場面で、各コースの実態に応じてヒントや助言を与えていた点がよかった。学び合いも積極的に取り入れられていた。証明の有用性については、既習事項の積み上げ(証明の積み上げ)が大事になってくるのではないかと。生徒たちの様子は大変すばらしい。少人数であっても手は抜かないという姿勢がよく表れていたと思う。

### (4) 音楽(3年) 単元名「器楽学習」 パイレーツ オブ カリビアン (吹奏楽編成)

指導者 小松 淳

① 本時のねらい 「自分の音を演奏して、全員で一つの響きを創る。」

## ② 授業研究会

〈授業説明〉毎週木曜日に複数の外部講師の指導により各学年で器楽学習を行っている。学年ごとに1年間で1曲を仕上げる計画で取り組んでいる。週1回で50分間の扱いなので十分な練習時間が取れないが、その中で工夫して取り組んでいる。今日の授業は分奏と合奏に分けて指導した。まだ未熟な部分も多いが、練習を重ねてさらにより演奏を目指していきたい。



〈指導助言〉さまざまな環境を生かして取り組んでいる。外部講師との細かい連携も効果的である。相手の響きや音を聴くのは大変難しいが、いろいろな手立てで効果的に聴き合っていた。

## Ⅲ へき地教育ブロック別実践研究集会

### 〈1〉Aブロック

- 1 趣 旨 Aブロックのへき地学校に勤務する教職員が一堂に会し、地域の特性を生かしたへき地教育の推進に資するため、教職員の研修を深め資質の向上を図る。
- 2 期 日 平成20年8月8日（金）
- 3 会 場 上野村立上野中学校
- 4 参加者 Aブロックのへき地学校教職員124名
- 5 日 程
- (1) 受 付 8:45～9:00
- (2) 開会行事 9:00～9:15  
○あいさつ Aブロック会長 黒澤 右京  
○来賓祝辞 上野村教育委員会教育長 西澤 晃 様
- (3) 講 演 9:20～10:30  
○演題 「揚水発電の仕組みと神流川発電所の概要について」  
○講師 東京電力（株）建設部神流川工事事務所長 上條 勝彦 様
- (4) 会場移動 10:30～11:00
- (5) 地域研修 11:00～12:00  
○Aコース（不二洞・スカイブリッジ）（上野村） 47名参加  
○Bコース（黒澤家住宅・慰霊の園）（上野村） 20名参加  
○Cコース（体験館での体験活動；そば打ち体験）（上野村） 30名参加  
○Dコース（恐竜センター）（神流町） 27名参加

### 6 まとめ

講演会では、長野県の南相木村を流れる信濃川水系南相木川の最上流部に上部ダム、群馬県の上野村を流れる利根川水系神流川の最上流部に下部ダムを建設し、この間の落差653mを利用して、最大出力282万kWの純揚水式発電所を建設するものであり、このことがわかりました。揚水発電は、発電所を挟む上と下の2つの調整池を利用し、昼間の電気の需要の多いときは上部調整池から下部調整池に水を落として発電し、電気の需要の少ない夜間に水車を逆回転させて下部調整池から水をくみ上げ、再び昼間の発電に使うというように一定量の水を繰り返して使用する発電方式です。現地の見学もできるので、興味のある人は事前に連絡を取って是非行ってください。

地域研修では、A・B・C・Dコースの内、第2希望まで選択してもらいましたが、ほとんど全員の方が希望どりのコースで研修ができました。暑い中でしたが、希望ごとに4コースに分かれて上野村の伝統文化や歴史的遺産を見学したり、特産物料理づくり（そば打ち体験）に挑戦したりして、地域の特性をいろいろ体験できました。「慰霊の園」を見学した人達は、1985年8月12日に、上野村の御巢鷹山の尾根に墜落し犠牲になった520名の御霊の冥福と二度とこのような悲惨な事故が起こらないよう祈りました。またDコースは、神流町の恐竜センター見学で、学芸員さんから詳しく説明してもらい恐竜時代に思いを馳せることができ、貴重な体験ができました。今年度から、Aブロックは3地区（奥多野地区、甘楽地区、安中・高崎・前橋・勢多地区）が一緒になって広範囲の中での研究集会だったのでいろいろ調整等大変でしたが、事前に連絡を取り合って意義あるものにできました。これからも連絡を密に取り合って、それぞれの地域のよさを研修し合い教育活動に活用していければいいと思います。

（文責 多野郡上野村立上野中学校長 黒澤 右京）



## 〈2〉Bブロック

- 1 趣 旨 地域の実態に即した、へき地教育の推進を図るため、教職員の研修を深め、資質向上を図る。
- 2 主 催 群馬県へき地教育研究連盟 吾妻郡へき地教育研究会  
吾妻東部・西部へき地教育センター
- 3 期 日 平成20年 8月 7日(木)
- 4 会 場 吾妻郡生涯学習センター「ツインプラザ」 交流ホール
- 5 参加者 吾妻郡へき地学校教職員他 160名
- 6 日 程
- (1) 受 付 1階ホール前 13:00～13:15
- (2) 開会行事 13:15～13:30
- 開会の言葉
- へき地教師の歌斉唱
- あいさつ 吾妻郡へき地教育研究会 会 長 中山 邦男
- 来賓祝辞 吾妻教育事務所長 小池 明夫 様  
六合村教育委員会教育長 茂木 真一 様  
中之条町教育委員会教育長 唐澤 正明 様
- (3) 参加報告 13:30～14:00
- 平成19年度全国へき地教育研究大会奈良大会参加報告
- 中之条町立伊参小学校 小林 浩 教諭  
東吾妻町立坂上中学校 荒木 幸子 教諭  
～休 憩～
- (4) 講演会 14:10～15:40
- 演 題 「新学習指導要領と授業づくり」
- 講 師 東京福祉大学教授 小林 靖能 様
- (5) 閉会行事 15:40～16:00

## 7 参加報告の概要

### (1) 参加報告Ⅰ

- 会 場 黒滝村立黒滝小学校
- 研究主題 ふるさとを知り、愛する心を育てる  
～コミュニケーションを重視した「やまなみタイム」を通して～
- 研究内容 ・「生活科」「総合的な学習の時間」における地域の素材・人材を生かした学習指導  
・「全校スピーチ」「読書タイム」「わくわくタイム」「どきどきタイム」(日常的な活動)の取組

### (2) 参加報告Ⅱ

- 会 場 天川村立洞川中学校
- 研究主題 ふるさとを愛し、たくましく生きる子どもの育成  
～一人一人の思いや個性を大切に学習活動の実践を通して～
- 研究内容 ・「授業」「学習」のアンケート調査をもとにした各教科の授業改善  
・ふるさと学習を通しての郷土愛の育成 ・表現力の育成

## 8 講演会の概要

新学習指導要領による教育課程の編成・実施に向けて、「授業づくり」という具体的視点から講演をいただいた。教材研究の在り方、実際の学習指導における基本的な考え方、具体的な指導の手だて・手順等について、その本質を考えさせられる、たいへん有益な内容であった。



(文責 吾妻郡六合村立六合小学校長 中山 邦男)



### 〈3〉Cブロック

- 1 趣 旨 利根郡・沼田市・渋川市のへき地小・中学校に勤務する教職員がへき地の特性を生かす教育について研究するとともに、赤城山西麓の自然や農業を現地研修し、教職員の資質の向上を図る。
- 2 主 催 群馬県へき地教育研究連盟 利根沼田渋川へき地教育研究会  
利根郡へき地教育センター
- 3 後 援 群馬県教育委員会 群馬県へき地教育振興会 昭和村教育委員会
- 4 期 日 平成20年8月5日（火） 午前8時45分（現地集合）
- 5 会 場 昭和村立大河原小学校
- 6 参加者 利根郡・沼田市・渋川市のへき地小・中学校に勤務する教職員 35名
- 7 日 程

(1) 開会行事 8:45～9:00

①へき地教師の歌「太陽になろう」

②あいさつ

- ・群馬県へき地教育研究連盟副理事長 小林 兵 衛
- ・利根郡へき地教育センター所長 関 谷 崎 次 様
- ・昭和村教育委員会教育長 角 田 侃 男 様

(2) 講演会 9:00～10:00

①講師紹介 大河原小学校長 北 原 一 浩

②講 演 「赤城山の自然」

講 師 昭和村教育委員会教育長 角 田 侃 男 様

③講演内容

- ・群馬県の地層
- ・群馬県地質略図
- ・赤城火山形成断面模式図
- ・三峰山から眺めた沼田盆地
- ・赤城山形成の様子
- ・赤来火山と古沼田湖
- ・大沼周辺のコース

(3) 現地研修（農業体験） 10:30～11:30

・収穫体験 講 師 木 村 新 二 郎 様

(4) 閉会行事

・講師へのお礼の言葉

大河原小学校長 北 原 一 浩

解 散

### 8 まとめ

前半の「赤城山の自然」の講演では、古代からの赤城山の変容や沼田盆地の成り立ち、利根沼田地区の自然などについて、いろいろな資料をOHPとスライドを使って効果的に説明されていた。参加者は赤城山の話に興味深く聞いていた。

また、後半の「農業体験」では、昭和村の農業の話やこの日に収穫できるように蒔いたという「ほうれん草」の栽培・作業行程等について説明を聞きいた後、実際に小型の鎌を手にして真剣に「ほうれん草」の収穫体験を行った。参加者は、刈り取ったほうれん草を袋詰めして満足そうでした。講演・農業体験により充実したひとときを過ごすことができた。

（文責 利根郡昭和村立大河原小学校長 北原 一浩）

## V 第57回全国へき地教育研究大会（山梨大会）

### 〈1〉概要報告

高崎市立倉淵川浦小学校長 高橋 和幸

第57回全国へき地教育研究大会山梨大会は、「伝えよう 育てよう 豊かな心 山梨から」の大会スローガンのもと、平成20年10月16日（木）～17日（金）の2日間にわたって、山梨県甲府市を中心に県内3市2町1村10校を会場として開催された。

第1日目は、同市「アイメッセ山梨」において、全国のへき地校から1000名を超える教職員が参加し盛大に開催された。本県からは、校長・教諭等19名が参加した。午後は同会場で6つの分散会が行われた。終了後、翌日の分科会場となる各小中学校周辺地域の宿泊地へ専用バス等で移動した。

第2日目は、10の分科会場において公開授業行われ、授業参観後の分科会では、研究発表や熱心な協議が行われた。

#### 第1日目（10月16日）「全体会・分散会」

全体会開会式は、数多くの来賓ご臨席のもとで行われた。へき地教師の歌「太陽となろう」を斉唱し、主催者側の文部科学省初等中等教育局教育課程課長・山梨大会会長・全国へき地教育研究連盟会長の挨拶に続き、来賓を代表して山梨県知事から歓迎の言葉をいただいた。

基調報告では、全へき連研究部長から研究主題「ふるさとに誇りを持ち、新しい時代を拓く、心豊かな子どもの育成」を踏まえた「第6次長期5か年研究推進計画5年次の推進」の基調報告や山梨大会研究部長から「全国へき地教育研究大会山梨大会」の基調報告があった。

記念プログラムでは、全体講演「新学習指導要領の実現に向けて」として、文教大学 嶋野道広氏による講演が行われた。総合的な学習の時間への取り組みについて、「理念」は変わらず、「学習指導要領」が変わるだけであり、今後も総合的な学習の時間への取組の重要性を中心に講演された。

その後、アトラクションとして、「甲州の民話」を、山梨むかしがたりの会代表の藤巻愛子氏の語りが行われた。

最後に次年度の開催県である鹿児島県実行委員長の挨拶・分科会場予定校の紹介並びに大会旗引き継ぎが行われ、全体会が終了した。

午後は、全国第6次研究推進計画研究課題を踏まえ、6分散会場において各課題ごとに2校（全国ブロック1校、関東甲信越ブロック1校）の実践発表が行われ、次に研究協議を行った。全国各地からの実践発表は、今後のへき地教育の充実・発展に示唆を与えるものであった。

#### 第2日目（10月17日）「分科会」

山梨県内3市2町1村10会場（早川町立早川北小学校、早川町立早川中学校、北杜市立高根清里小学校、笛吹市立芦川中学校、富士河口湖町立富士豊茂小学校、富士河口湖町立上九一色中学校、丹波山村立丹波小学校、丹波山村立丹波中学校、上野原市立秋山小学校、上野原市立秋山中学校）において、それぞれの研究テーマを踏まえて各校の特色ある教育の公開授業並びに研究発表・研究協議が行われた。詳細については、次頁以降の各分科会報告を参照いただきたい。



## B分科会

# ふるさと早川に誇りを持ち、たくましく生きる生徒の育成

～表現力の向上を目指す教育活動を通して～

群馬県教育委員会義務教育課指導主事 松村 澄人

1 会場校 山梨県早川町立早川中学校（生徒数18名 3学級 職員数17名）

## 2 地域・学校の概要

早川町は、山梨県の南西部に位置し、県庁所在地の甲府市からは約 50km である。県内の南アルプス市・南巨摩郡増穂町・鵜沢町・身延町、そして、南アルプスを挟んで静岡県静岡市に接している。日本百名山「間ノ岳」をはじめとする四季白雪を戴く南アルプスの連峰が雄大な自然景観を作り出しており、四季を通して素晴らしい景観が見られる緑豊かな山里である。

昭和31年に西山・三里・都川・硯島・五箇・本建の旧6ヶ村が合併してできた早川町の人口はピーク時の約1万人から現在1,452人にまで減少し、人口が全国最小の町となっている。

早川中学校は、昭和58年に硯島中学校と都川中学校の統合により誕生したへき地指定2級の小規模校である。校区は広く、全生徒がスクールバスで通学している。縦割りによる団活動が活発であり、給食当番や週番活動、学園祭体育部門や体験活動等、全校で活動することが多く、家族的な雰囲気の中で学習している。昨年度から文部科学省所管の「仲間と学ぶ宿泊体験活動推進校」の指定を受け、豊かな人間性や社会性をはぐくむための様々な取組を行っている。

## 3 研究の概要

### (1) 研究の内容

- ①教科の特性に応じて、表現力を高めるための指導の工夫(教科指導)
- ②生徒同士のかかわり合いの中で、自己表現力を高めるための指導の工夫(道徳)
- ③全校による総合的な学習の時間発表会を通して、表現力を高めるための指導の工夫(総合的な学習の時間)
- ④表現力を高めるための話し合い活動の工夫(特別活動)

### (2) 公開授業

#### ①公開授業Ⅰ

- 【1年国語】・・・「早川のいいつたえ」
- 【2年理科】・・・「細胞の呼吸」
- 【3年社会】・・・「早川町の条例案づくりをしよう」

#### ②公開授業Ⅱ

- 【全校道徳】・・・「地域の先輩に学ぶ」

## 4 所感

早川中学校の研究発表及び公開授業を通して、全教職員が研究主題に迫るために「自分の考えをもつこと」「自分の考えを相手に伝えること」「相手の考えを受け入れ、自分の考えを更に発展させること」の3点を軸として、生徒との信頼関係を大切にしながら積極的に研究に取り組んでいる姿を見ることができた。公開授業では、4つの授業を参観したが、教師は、生徒一人一人に対してきめ細かな支援を行っており、授業を受ける生徒の姿も意欲的であった。

公開授業Ⅰの社会では、地元の町会議員をゲストティーチャーとして招くなど、地域との連携を密にした指導の工夫が見られた。また、公開授業Ⅱの全校道徳は、全校生徒18名が一つの教室に集まって学習する形態であったが、3人の教師がそれぞれの役割を十分に果たしながら、生徒の内面を引き出すための効果的な支援を行っている場面が随所に見られた。小規模校の特性を十分に生かしながら、全教職員が一丸となって生徒の表現力を高めるための指導方法の研究に取り組んでいる姿は、すばらしいものであった。今後のへき地教育の一層の充実を図る上で、非常に参考になる内容であった。

## C分科会

# 豊かな心をはぐくむ清里教育の創造

～ひと・もの・しぜんとの関わりを通して～

片品村立片品小学校教諭 星野 純一

1 会場校 山梨県北杜市立高根清里小学校（児童数109名）

## 2 地域・学校の概要

清里高原は、山梨県北杜市高根町の北東部に位置し、八つの峰からなる八ヶ岳の主峰赤岳の南麓に広がっている。飯盛山を源とする大門川と、八ヶ岳を源とする川俣川にはさまれた大地で、豊かな自然に恵まれ、観光地として名高いところである。

高根清里小学校は、学制発布の翌年、明治6年に津金学校清里分校としてスタートした。清里小学校、高根東北小学校などの改称、住民ら自らの手による分教場の建設とその分離独立（八ヶ岳小学校）等を経て、昭和49年高根東北小学校と八ヶ岳小学校が統合され、高根清里小学校となった。へき地指定1級地で、現在児童数は109名、6学年7学級（特別支援学級1学級含む）であるが、毎年児童数の減少が続いている。地域の方々や保護者の方々の協力を得て、「清里を知り 清里を愛し 清里を創る」を指導方針とした「清里教育」を進めている。

## 3 研究の概要

### （1）研究の内容

- ① 児童の実態（生活の様子）を把握する。
- ② 「ひと・もの・しぜん」との関わりから、児童に育てたい「豊かな心」を明確にする。
- ③ めざす「豊かな心」を育てるための効果的な授業のあり方を研究する。
- ④ 行事や集会、日常的な諸活動を見直し、有効な「ひと・もの・しぜん」との関わらせ方を工夫する。
- ⑤ 家庭・地域といかに連携を図るかを検討するとともに、地域の自然や文化、地域社会の豊かな人間関係等の有効な生かし方を検討（研究）する。

### （2）公開授業

- ① 公開授業Ⅰ
  - 第1・第2学年：生活科
  - 第3～第6学年：総合的な学習の時間
- ② 公開授業Ⅱ
  - 全校児童による学習発表会 「わたしたちが創る《清里物語》」
  - 全校児童による合唱

## 4 所感

全国へき地教育研究連盟の研究主題を受け、山梨県では「ふるさと山梨に誇りをもち、新しい時代を拓く心豊かな子どもの育成」を研究主題に設定している。高根清里小学校では、「ひと・もの・しぜん」との関わりを通して、豊かな心をはぐくむことを目標としている。公開授業では地域の方々や保護者の方々の協力を得て進められている「清里教育」の成果が感じられた。児童からは、ふるさとや人々を思いやる温かい心が伝わる発表がなされたり、ゲストティーチャーの方からは、子どもたちへの思いや願いがこもった話がなされたり、素晴らしいものであった。授業・学習発表会・合唱に一生懸命に取り組む児童の姿や、笑顔で挨拶をしてくれる児童の姿を見て、研究テーマである「豊かな心」が育まれていることをとても強く感じた。

## D分科会

# 地域や生徒の実態をふまえた学びの創造

～個や集団を生かした指導の工夫を通して～

上野村立上野中学校長 黒澤 右京

1 会場校 山梨県笛吹市立芦川中学校（生徒数13名 3学級 職員数12名）

## 2 地域・学校の概要

笛吹市芦川町は、平成18年8月に笛吹市に合併し、東八代郡芦川村から笛吹市芦川町に呼称変更が行われた。現在の芦川町内の人口は、およそ550人である。山間へき地で比較的地理的に閉鎖されていたためか、雄大な自然や、昔ながらの暮らしぶりが残っている地域である。

また、町内には、東日本最大級の面積を誇るスズランの群生地もあり、合併前は村花としてスズランが制定されていた。しかし、現在芦川地区は、年々過疎化・高齢化が進み、若い人達は働き場・生活の場を町外に持つようになってきている。

芦川中学校は全校生徒数13名であるが、近年他地域からの区域外通学生が増加する傾向にある。13名中8名が中学校入学後の町外からの転入生・通学生である。

学校行事等は、棟続きの小学校と合同で行うことも多く、よりよい協力体制が構築されている。行事には地区住民の方が協力して行う学園祭（緑流祭）など地域と密接な連携のもと教育活動を進める恵まれた環境にある。

## 3 研究の概要

### (1) 研究の内容

①基礎・基本の定着を図るための授業中における個を生かし、意欲を高める工夫

②他と支え合える力を育てるための特別活動における多様で柔軟な集団を生かした取組の工夫

### (2) 公開授業

#### ①公開授業Ⅰ

1年（2名）英語「Writing Plus 1 学校のホームページ」

2年（6名）国語「読むこと 古典教材 枕草子、徒然草」

3年（5名）理科「物質と化学変化の利用」

#### ②公開授業Ⅱ

全校構成劇「隧道」

## 4 所感

芦川中学校は、他地域からの入学生、転入生が増え、それに伴い不登校生徒などいろいろな事情を持った生徒が多いという実態を受け、生徒一人一人の学力の継続的な実態分析や個々の生徒の課題を明確にした授業の工夫をしている。小規模校のメリットを随所に生かして、きめ細かい指導の手だてをしている様子が見られた。特に、常勤の教員がいる5教科を中心に国語・数学・英語に焦点を当て、基礎・基本の定着を目指してより確かな学力の定着を図っているのが分かった。また、他地域から様々な事情や問題を持って芦川中学校に来る転入生に対してどのように集団としての仲間意識を持たせ、社会性を育てていくかという課題が生まれた。そこで、個の活動場面や集団の質の変容に着目して、特別活動の中で多様で柔軟な集団を生かした活動や活動形態を工夫して具体的に取り組んでいる様子が、全校構成劇「隧道」を参観してよく分かった。学校の実態に合った指導法を確立し、学習や活動の成果を個々の成長につなげていた。



## E分科会

# 生き生きと学び合う子ども

～互いの立場や考えを尊重し、言葉で伝え合う子どもの育成をめざして～

高崎市立倉淵川浦小学校長 高橋 和幸

**1 会場校** 山梨県南都留郡富士河口湖町立富士豊茂小学校（児童数34名 4学級 職員数9名）

## 2 地域・学校の概要

富士豊茂小学校は、富士山の西麓、山梨・静岡両県の県境に位置し、南西側は静岡県富士宮市と接している。学校は、森林に囲まれた標高1029mの地点に位置し、南西に傾斜した緩やかな起伏の多い高原地帯である。どの教室からも富士山が見えるよい環境にある。

戦前、広大な原野だったこの地に、終戦後の開拓事業で県内外から集まった人々が入植し、学校のある富士ヶ嶺地域が誕生した。この地は一時期は大根栽培が盛んだったが、その後酪農が中心になり、今では県内随一の酪農地域になっている。しかし、ここ数年離農する人もあり、地域外へ通勤する人も増えてきている。児童の家庭でも直接酪農に関わっているのは約半数という状況である。地域の熱意によって設立された学校であるゆえ、住民の学校教育に対する関心や期待、支援は絶大であり、教育推進の大きな支えになっている。

## 3 研究の概要

### (1) 研究の内容

- ①全教育活動において、話す・聞く場面を計画的・意図的に設定し、伝え合う力を育成する。
- ②朝の会等のスピーチ、昼休みのベストタイムの工夫により、伝え合う力を高める。
- ③話すこと・聞くことに関する児童の実態調査を行い、授業改善や指導に生かす。

### (2) 公開授業

#### ①授業1

- |       |    |                               |
|-------|----|-------------------------------|
| 1年生   | 算数 | 「たしざん」                        |
| 2年生   | 国語 | 友だちに分かるように話そう 「あったらいいな、こんなもの」 |
| 3・4年生 | 理科 | 「もののかさと温度」                    |
| 5年生   | 社会 | 「工業の今と未来」                     |
| 6年生   | 国語 | 表現を味わい、豊かに想像しよう 「やまなし」        |

#### ②授業2

全校合唱 各学級発表

## 4 所感

児童数34名という小規模校であり、中学年・高学年は、複式学級である。少人数であるが、活気に満ちた学校であった。全員合唱・各学級発表では、学校の特色、地域の特色を各学年が大きな声でわかりやすくパワーポイントを使って発表していた。個々の児童が生き生きと発表していたのが印象的であり、個を大切にしている教育が感じられた。

研究会当日は、小さな学校に150名を超える参観者が押し寄せたわけであるが、普段の学校とは大きく異なる環境の中で、教職員の取り組み、児童の頑張りは、素晴らしいものであった。

倉淵川浦小学校の「小さな学校の 大きな夢」というテーマの目指すものと同様、山梨県の小さな学校の教育であるが、山梨県、日本、そして世界のどこにおいても通用する教育を目指し、子ども達が、富士豊茂小学校を誇りに思う教育が実践されていた。

## F分科会

# 「自ら学び、考え、主体的に 行動することのできる生徒の育成」

～『ことばの力』をはぐくみ、確かな学力の向上を目指して～

沼田市立利根中学校校長 池田 惠一

1 会場校 山梨県富士河口湖町立上九一色中学校（生徒数35名 3学級 職員数10名）

## 2 地域・学校の概要

上九一色中学校は、県の南部で静岡県との境に近く、富士山を望む風光明媚な本栖湖畔、標高約930mに位置している。学区は、東西に約9km、南北に約1.7kmで三方を山に囲まれた長方形をなし、青木ヶ原樹海が広がっている。校区が広いので全校生徒がスクールバスで通学している。学区の豊かな自然環境を利用して、地域とのかかわりを深めた教育活動を展開している。

## 3 研究の概要

### (1) 研究の内容

#### ① 基礎学力部会を中心とした取組

小規模校の特性を生かし、個々の生徒にあった具体的な支援体制の一つとして、毎週月曜日6校時に「基礎学習の時間」を設け、基礎学力の定着を図っている。校長や教頭も含め全校体制（複数の教師で1クラスの生徒を指導）で、かつ教科や学年の枠を越えた指導体制で行っている。また、「ノート指導」の重要性を確認し、生徒達のノート記入の問題点や課題、工夫等について職員で共通理解しながら、ノート指導の改善を図っている。

#### ② 体験学習部会を中心とした取組

『ことばの力（語彙力、思考力、判断力、表現力）』をはぐくむため、地域を生かした体験学習（主に総合的な学習の時間）で感じたこと、学んだことを相手に伝え、さらにそれを聞き合うことを重視した指導を行っている。地域を生かした体験学習には、カヌー教室、椎茸栽培、樹海散策、酪農体験などがある。各教科においても、『ことばの力』育成のための具体的な手だてを立てて日々の指導を行っている。

### (2) 公開授業

公開授業Ⅰ 1年（11名）社会 身近な地域を調べよう

2年（8名）数学 平行線と角

3年（16名）保体 健康な生活と疾病の予防（感染症の予防）

公開授業Ⅲ 総合的な学習（1年…樹海を知る 2年…働くとは 3年…命を考える）

## 4 所感

学校の内的・外的条件を積極的に活用して教育を行っている学校という感銘を受けた。その一つは、地域教材の開発と地域人材の活用である。参観した1年社会科の授業においても、戦後開拓された富士ヶ峰地区を教材化し、生徒の探究意欲を高める授業を行っていた。二つめは、全校生徒35名という小規模校の条件を、少人数指導ができるという利点にとらえ、個に応じた指導の充実（「基礎学習の時間」設定、ノート指導の改善等）を図っている点である。

また、『ことばの力』の育成を、全教科や日々の学校生活全般を通じて行っている所に感銘を受けた。公開授業のどの指導案にも『ことばの力』をどうとらえて指導するかが明記され、まさにPISA型読解力の指導を全教育活動で行っているという印象を受けた。

## H分科会

# 地域にねざし、たくましく明日を拓く生徒の育成

～学びの意欲を高め、自ら考え、表現する力を育てる実践を通して～

甘楽町立第三中学校教諭 茂木 誠

1 会場校 山梨県丹波山村立丹波中学校（生徒数 17 名 3 学級）

## 2 地域・学校の概要

丹波山村は山梨県北東端に位置し、村域の大半が山林地帯である。多摩川の支流である丹波川に国道 411 号（青梅街道）が並行し、流域沿いの河岸段丘上や傾斜地に集落が点在している。買い物などは丹波川下流にある奥多摩地域や八王子市を利用する家庭が多いという。少子高齢化が顕著であり、その対策の 1 つとして 20 年以上前から親子山村留学制度を導入している。

丹波中学校は地域の方々を招いての栽培活動、全校生徒・職員が参加する全校音楽活動が盛んである。中学卒業後の進路は地理的状况から高校進学の子供の大半は丹波山村を離れ、1 人暮らしを行っているという。丹波中学校はへき地 2 級指定校である。

## 3 研究の概要

○研究の内容

丹波中学校の研究主題は、全国へき地教育研究大会山梨大会の掲げる研究主題を受け設定されていた。また、丹波中学校の生徒の実態をふまえ「学びの意欲向上」「考える力」「表現する力」の 3 点を研究重点に据え、実践活動が行われた。

本研究における特徴の 1 つとして、研究組織を挙げることができる。南隣に位置する小菅村との連携を図り、丹波山小菅地区教育協議会を組織し、小学校、中学校のブロック協議会の中で議論を深めることができた。これによって、各教科など複数の教職員で課題に対応できた。

具体的な事例として、各種の学習や生活検査などを積極的に導入し生徒の詳細な実態把握と客観的な変化や推移を収集し授業改善に活かしていた。また、1 枚ポートフォリオの活用、KJ 法を取り入れての話し合い活動の充実、「まなBOOK」の活用等により学習習慣の確立を図り、「まなびTIME」を設定し個に応じた補習活動を行っている。さらに、総合的な学習の時間を中心に、地域の教育資源を活用し郷土愛を育てていた。

○公開授業Ⅰ 1 年数学「比例と反比例」 2 年英語「Speaking Plus 2」 3 年社会「地方政治と自治」

○公開授業Ⅱ 全校生徒＋教職員による合奏 / 総合的な学習の時間 屋台村形式の発表

## 4 所感

へき地教育と生徒の教育を考えたとき、丹波中学校の発表から本県でも活用できそうな事例が見られた。群馬県でもへき地校では経験豊かな教職員や相談したり教えてもらったりできる同じ教科の教職員が少ないことが多い。この場合、個人の研修などの励みも必要であるが、近隣の学校と定期的な交流や研修の場があれば経験の浅い教職員にとって大変心強いのと感じた。

また「ふるさと」や「郷土愛」を育むベースとなる学習活動の存在である。一般的に「ふるさと」や「郷土愛」を感じるポイントは、家族や自然環境、そして中学校生活だろうと私は感じている。中学校生活の中で思い出に残るものは日頃の教科学習よりはむしろ、クラスや学年対抗の競技会や合唱合奏コンクール、部活動などであろう。しかし、へき地校ではそのどれもが町の学校や大規模校のような活動とはならない。そんな中、丹波中学校の全校合奏は全校生徒による共同制作活動であり、学校や地域の伝統として心に残るものようであった。また、総合的な学習の時間で扱っている内容は、地域を再発見できるような内容であった。こういった活動が、地域に残る生徒と地域を旅立つ生徒の心やふるさとを繋ぐものになるのであらうと感じた。

## I 分科会

# 心豊かに たくましく生きる あきっ子の育成

～食育の取組を通して～

孺恋村立干俣小学校教諭 高木 茂

1 会場校 上野原市立秋山小学校（児童数95名 7学級 職員数15名）

## 2 地域・学校の概要

秋山は山梨県の東南端に位置し、西から東に流れる秋山川に沿って点在する18の地区からなっている。「秋山村」として長い歴史を重ねてきたが、平成17年2月に旧上野原町と合併し、上野原市となった。地区の総面積の90%を山林が占めている。人口は2073人、世帯数621である。

村内の小学校及び中学校は各1校であることから、地域住民の教育にかける期待は大きく、また協力的である。

秋山小学校は平成13年4月に秋山の3つの小学校が統合し開校した。同時にスクールバス通学が始り、歩くことが少なくなり、外に出て遊ぶことも少なくなった。また、肥満傾向の子どもの割合も多いという状況に対して平成16年度より校内研修で健康教育に取り組んできた。平成17年度からは、体力的な面ばかりでなく、「食育」に目を向け取り組んでいる。

## 3 研究の概要

(1) 研究の方法と内容

- ①理論研究（食育の意義。食育全体計画・年間指導計画の見直し等）
- ②授業研究（学級活動において養護教諭や栄養職員との連携。教材・教具の工夫等）
- ③環境整備（意識向上と継続のための掲示。旬の食材の展示等）
- ④家庭・地域との連携（食育についての学習会。地域の食文化学習の実施等）

(2) 公開授業

- ①公開授業Ⅰ 全校集会
  - 学習発表 第1学年、第4学年「秋山探検隊～おつけ団子を中心に～」  
第6学年 「秋山歴史探検隊～秋山の米つくり～」
  - 全校合唱 「星つむぎの歌」
- ②公開授業Ⅱ 授業公開
  - 第2学年 学級活動「よくかんで食べよう」
  - 第3学年 学級活動「バランスよく食べよう」
  - 第5学年 学級活動「朝食を食べよう」

## 4 所感

秋山小学校は、全国へき地教育研究大会山梨大会に向けて、食育に研究を絞って全職員が一丸となって取り組んでいた。たいへん強く感じたことは、研究紀要の言葉を借りれば「食育を核にして教育活動を見渡してみるといろいろなものが見えてきて、それらに前向きに取り組む先生方の姿が子どもたちをいきいきと輝かせ、食に関する意識の高まりや変容に繋がっているばかりでなく、学校生活のいろいろな場面での子どもたちの活気あふれる活動に現れている」ということである。研究仮説である「全教育活動における食育の取組を行うことにより、心の育成、社会性の涵養、自己管理能力の育成を図ることができ、心豊かにたくましく生きる子どもが育つであろう」が、実現しつつあることを実感できる公開授業Ⅰの全校集会、公開授業Ⅱの学級活動や環境整備であった。

## J分科会

# 意欲的に学習する生徒の育成を目指して

～生徒一人一人を大切にしたいきめ細かな指導を通して～

吾妻郡長野原町立西中学校長 中澤 和則

1 会場校 山梨県上野原市立秋山中学校（生徒数 49名 3学級 職員数 17名）

## 2 地域・学校の概要

上野原市は旧秋山村と上野原町が平成 17 年 2 月に合併し誕生した。山梨県の東端に位置し、東京都並びに神奈川県と県境を接する。

秋山中学校は秋山川に沿った山里、秋山（旧秋山村）の中心部にある。へき地 1 級の小規模校で、学区が東西 15km にわたり生徒全員がスクールバスを利用している。少子化の影響で 7 年前に比べ生徒数は半減しているという。

生徒たちはとても純朴で、学校教育目標「あさかげ：明るく・さわやか・賢く・元気」のもと、一生懸命に諸活動に取り組んでいる。地域を学ぶ総合的な学習の時間や JRC 活動、JICA や都留文科大学との連携による国際交流活動などの特色ある教育に取り組んでいる。

## 3 研究の概要

### (1) 研究の内容

#### ① 「分かる授業づくり」に向けての取組

##### ア 具体的な授業づくり

- ・単元の授業計画、目標や評価基準を示し、学習に見通しをもたせることにした
- ・自己評価シート、学習プリント、学習まとめシートを活用した
- ・話し合いや発表の場を重視し、表現力の向上を図った

##### イ、指導力を高めるための教師の学び合い（授業研究）

#### ② 「学習習慣確立」に向けての取組

##### ア、学習に対する意識を高めるための取組（学習取組実践表、学習の手引き 他）

##### イ、学習内容を定着させるための取組（放課後学習会、質問タイム）

### (2) 公開授業

#### ①公開授業Ⅰ 2年数学「いろいろな図形の角度を求めよう」

○授業の工夫：学習プリントを使つてのコース別学習、3コースをさらに細分化

○指導者が7名（T1の他に、教頭、空き時間教員2名、養護教諭、司書、ALT）

#### ②公開授業Ⅱ 2年理科「生命を維持するはたらき」

○授業の工夫：学習プリントを活用し、自分の考えをもって話し合いを深めさせる

○一人一人が実験に取り組めるよう、実験器具を工夫していた

## 4 所感

へき地小規模校で、どの生徒も勉強が分かるようになりたいという思いに答えるために取り組んだ、「一人一人を大切にしたいきめ細かな指導」が「できた、わかった」と学習意欲を高める一方、指示待ちの生徒を生みだしたり、自ら考えたり自ら考えを広げたり深めたりする力が弱く、表現する力が不足しているという新たな課題に当たり、全校体制で取り組む研究姿勢に学ぶものがあつた。

15名の学級で7人のTTによる数学科の学習指導を見せていただき、その課題を痛感した。小規模校では物理的なきめ細かな指導体制より、一人一人がより多くの集団の中でより多様な考え方に触れ、自分の考えを練っていく時間に余裕を持たせることこそ必要だと感じた。



# 資 料

# I へき地学校の変遷

(平成11年度～19年度末)

年 度	学 校 名	変遷の内容
平成11年度	片品村立片品小学校東小川分校 " 越本分校	閉校（平成12年3月）となり、本校に統合。
	利根村立根利中学校	閉校（平成12年3月）となり、利根中学校へ統合。
平成12年度	(勢) 東村立沢入小学校	閉校（平成13年3月）となり、花輪小学校、杲小学校と統合し、「あずま小学校」となる。
	利根村立西小学校園原分校	閉校（平成13年3月）となり、本校へ統合する。
平成13年度	南牧村立南牧小学校	閉校（平成14年3月）となり、磐戸小学校へ統合。
平成14年度	利根村立南郷小学校 " 根利小学校	閉校（平成15年3月）となり、西小学校へ統合。
	新治村立入須川小学校	閉校（平成15年3月）となり、須川小学校へ統合。
平成15年度	神流町立中里小学校	閉校（平成16年3月）となり、万場小学校へ統合。
	神流町立万場中学校	閉校（平成16年3月）となり、中里中学校へ統合。
	藤岡市立日野中央小学校 " 日野西小学校	閉校（平成16年3月）となり、日野小学校へ統合。
	藤岡市立日野東小学校	名称を変更して「日野小学校」となる。（平成16年4月）
	藤岡市立南中学校	閉校（平成16年3月）となり、藤岡西中学校へ統合。
	下仁田町立東中学校 " 西中学校	閉校（平成16年3月）となり、下仁田中学校へ統合。
平成16年度	中之条町立第三小学校	閉校（平成17年3月）となり、第二小学校と統合し、「沢田小学校」となる。（平成17年4月）
	榛名町立第四小学校	閉校（平成17年3月）となり、第三小学校へ統合。
	南牧村立南牧中学校	閉校（平成17年3月）となり、磐戸中学校と統合し、「南牧中学校」となる。（平成17年4月）
平成18年度	吉井町立入野小学校多比良分校	閉校（平成19年3月）となり、入野小学校と統合する。（平成19年4月）
平成19年度	みなかみ町立須川小学校 " 猿ヶ京小学校	閉校（平成20年3月）となり、小学校へ統合する。（平成20年4月）
	六合村立第一小学校 " 入山小学校	閉校（平成20年3月）となり、六合小学校へ統合する。（平成20年4月）

## II 平成20年度 へき地学校資料

### 〈1〉 級別へき地学校数

〈( ) 内は、内数で休校中の学校である。〉

平成20. 5. 1現在

級別 校種別	県準	特地	国準	1級	2級	3級	4級	A		A B
								計 分校	県全体 分校	
小 学 校	10	6	13(1)	9	0	1(1)	0	39 3(2)	340 3(2)	11.5%
中 学 校	4	3	3	6	1	1(1)	0	18 1(1)	173 1(1)	10.4%
計	14	9	16(1)	15	1	2(2)	0	57 4(3)	513 4(3)	11.1%

### 〈2〉 級別へき地本校分校別学校数

平成20. 5. 1現在

級別 校種別		県準	特地	国準	1級	2級	3級	4級	小 計	合 計
	分校	0	0	2(1)	0	0	1(1)	0	3(2)	
中 学 校	本校	4	3	3	6	1	0	0	17	18 (1)
	分校	0	0	0	0	0	1(1)	0	1(1)	

### 〈3〉 級別へき地学校児童生徒数

平成20.5.1現在

校種別	級別		国準	1級	2級	3級	4級	計 (A)	県全体 (B)	A B
	県準	特地								
小学校	921	647	887	531	0	0	0	2,986	117,196	2.5%
中学校	316	407	191	516	32	0	0	1,462	57,621	2.5%
計	1,237	1,054	1,078	1,047	32	0	0	4,448	174,817	2.5%

### 〈4〉 郡市別へき地学校数一覧

〈 〉 内は、内数で休校中の学校である。

平成20.5.1現在

No.	郡市	学校数			内 訳						合計		
		本校	分校	計	文 部 科 学 省 指 定					県 準			
					4	3	2	1	準			特	
1	勢多	1(1)	1(1)	1(1)		1(1)							1(1)
2	多野	2		2			1	1	1				2
3	甘楽	2		2							2		2
4	吾妻	13		13			4	2	4	2	3	2	13
5	利根	7		7			3	2	3	2	1		7
6	前橋		1	1					1				1
7	渋川	1(1)	1(1)	2(1)					1(1)				2(1)
8	高崎	4		4					1	2	1		4
9	安中	3		3					2	1			3
10	沼田	4		4			1		1		3		4
総小計		36	3(2)	39(2)	0	1(1)	0	9	13(1)	6	29(2)		39(2)
計		53	4(3)	57(3)	0	2(2)	1	15	16(1)	9	14		57(3)

### 〈5〉 複式学級の郡市別、編制別、学級一覧(小学校のみ)

平成20.5.1現在

郡市	学年								学級数 計	学校数
	1・2年	2・3年	3・4年	4・5年	5・6年	3・4・5年	4・5・6年			
勢多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
多野	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1
甘楽	1	0	2	0	0	0	0	0	3	2
吾妻	1	0	1	1	1	0	0	0	4	2
利根	2	0	5	0	3	0	0	0	10	5
前橋	1	0	1	0	1	0	0	0	3	1
渋川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高崎	1	0	1	0	1	0	0	0	3	1
安中	1	0	2	0	2	0	0	0	5	2
沼田	0	0	1	0	1	0	0	0	2	1
計	7	1	13	1	9	0	0	0	31	15

〈6〉 級別へき地学校児童・生徒数の推移(小・中学校別)

年度	県 準		特 地		国 準		1 級		2 級		3 級		4 級	計 (A)		県全体(B)		(A)／(B)(%)	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
52	6,963	3,270	793	431	970	260	1,522	381	76	43	17	0		10,341	4,385	168,404	77,137	6.1	5.7
53	6,718	3,335	744	407	918	254	1,475	348	60	52	15	0		9,930	4,396	175,155	78,059	5.6	5.6
54	6,649	3,312	673	370	911	231	1,458	306	63	38	14	0		9,768	4,257	184,018	76,447	5.3	5.5
55	6,664	2,983	654	329	981	326	1,255	299	52	35	14	0		9,620	3,972	188,039	79,196	5.1	5.0
56	6,751	3,009	629	310	928	198	1,184	183	47	24	11	0		9,370	3,724	190,882	83,125	4.9	4.5
57	6,559	3,038	603	317	870	221	1,141	302	46	26	11	0		9,230	3,904	191,613	89,121	4.8	4.4
58	6,377	2,945	598	318	958	200	1,109	294	45	18	3	0		9,007	3,775	190,368	89,857	4.7	4.2
59	6,160	2,935	578	311	863	205	1,051	279	51	13	4	0		8,708	3,743	186,953	92,462	4.6	4.0
60	5,808	2,958	570	320	843	196	982	284	47	15	4	0		8,254	3,773	181,535	95,924	4.5	3.9
61	5,623	2,897	575	284	756	206	898	272	50	17	1	0		7,903	3,676	174,525	98,645	4.5	3.7
62	5,433	2,776	536	265	723	215	852	267	48	19	1	0		7,593	3,542	167,356	98,603	4.5	3.6
63	5,308	2,679	664	248	662	224	715	202	46	16	2	0		7,397	3,369	161,507	95,748	4.6	3.5
平元	5,185	2,497	652	238	629	210	686	199	48	14	1	0		7,201	3,158	156,680	91,502	4.6	3.5
平2	2,328	783	1,140	783	1,518	421	1,609	816	110	19	11	9	1	6,717	2,831	152,668	87,619	4.4	3.2
平3	2,252	766	1,142	813	1,486	391	1,597	799	29	83	14	8	1	6,521	2,860	149,153	85,001	4.3	3.3
平4	2,168	733	1,140	782	1,422	390	1,538	813	23	77	11	7		6,302	2,802	145,739	82,396	4.3	3.4
平5	2,110	680	1,110	803	1,356	407	1,506	1,186	18	71	10	5		6,110	3,152	142,339	79,203	4.3	4.0
平6	2,047	614	1,097	796	1,293	407	1,448	751	13	72	5	9		5,903	2,649	139,346	76,265	4.2	3.5
平7	1,977	589	1,065	803	1,242	375	1,414	726	10	68	12	8		5,720	2,569	136,361	74,105	4.2	3.5
平8	1,425	339	1,582	1,013	1,098	369	1,283	710	97	58	2	8		5,487	2,497	132,149	73,180	4.2	3.4
平9	1,334	314	1,503	1,010	1,117	364	1,203	712	80	69	1	3		5,238	2,472	128,340	72,283	4.1	3.4
平10	1,298	302	1,469	940	1,049	346	1,128	703	76	58	0	0		5,020	2,349	125,648	70,481	4.0	3.3
平11	1,222	292	1,398	921	995	329	1,096	713	78	58	0	0		4,789	2,313	123,443	67,831	3.9	3.4
平12	1,160	285	1,350	858	953	336	1,044	692	77	47	0	0		4,584	2,218	121,396	65,681	3.8	3.4
平13	1,042	312	1,318	840	920	333	999	682	64	44	0	0		4,343	2,211	120,264	64,305	3.6	3.4
平14	1,132	476	932	475	1,148	325	794	644	4	41	0	0		4,010	1,961	119,455	63,335	3.4	3.1
平15	1,114	474	1,039	581	951	288	768	613	0	43	0	0		3,872	1,999	119,760	60,356	3.2	3.3
平16	1,090	231	809	535	1,116	243	698	563	0	43	0	0		3,713	1,572	119,273	58,629	3.1	2.7
平17	1,093	353	774	398	1,033	217	665	567	0	35	0	0		3,565	1,570	118,877	58,272	3.0	2.7
平18	1,086	342	731	401	1,019	205	620	554	0	39	0	0		3,456	1,541	118,536	58,059	2.9	2.6
平19	1,020	341	708	415	952	193	584	567	0	33	0	0		3,264	1,549	117,423	58,034	2.8	2.7
平20	921	316	647	407	887	191	531	516	0	32	0	0		2,986	1,462	117,196	57,621	2.5	2.5

### Ⅲ 平成20年度 群馬県へき地教育振興会役員

平成20. 5. 1現在

会長 星野巳喜雄 (沼田：沼田市長)  
 副会長 宮前敏十郎 (多野：神流町長) 谷川 猛 (吾妻：中之条町教育委員長)  
 千明 金造 (利根：片品村長)  
 理事 中澤 充裕 (前橋：前橋市教育長) 小林巳喜夫 (渋川：渋川市教育長)  
 砂田 威夫 (高崎：高崎市教育長) 中澤 四郎 (安中：安中市教育長)  
 西澤 晃 (多野：上野村教育長) 高木 成雄 (甘楽：下仁田町教育長)  
 谷川 猛 (吾妻：中之条町教育委員長) 星野巳喜雄 (沼田：沼田市長)  
 千明 金造 (利根：片品村長)

#### 評議員

郡市	町村	評議員
前橋市		中澤 充裕 (教育長)
渋川市		小林 巳喜夫 (教育長)
勢多郡	富士見村	倉持 勝則 (教育長)
高崎市		砂田 威夫 (教育長)
安中市		中澤 四郎 (教育長)
多野郡	上野村	西澤 晃 (教育長)
	神流町	齋藤 義久 (教育長)
甘楽郡	下仁田町	高木 成雄 (教育長)
	南牧村	市川 文三郎 (教育長)
	甘楽町	柴山 豊 (教育長)
吾妻郡	中之条町	唐澤 正明 (教育長)
	長野原町	黒岩 文夫 (教育長)
	嬬恋村	萩原 良一 (教育長)
	草津町	浅香 勝 (教育長)
	六合村	茂木 真一 (教育長)
	高山村	高平 秀三 (教育長)
	東吾妻町	一場 孝行 (教育長職務代理者)
沼田市		津久井 勲 (教育長)
利根郡	片品村	飯塚 欣彦 (教育長)
	昭和村	角田 侃男 (教育長)
	みなかみ町	登坂 義衛 (教育長)

監事 黒岩 文夫 (吾妻：長野原町教育長) 飯塚 欣彦 (利根：片品村教育長)

### 平成20年度 へき地教育振興会事務局及び郡市町村事務担当者・担当指導主事

事務局書記・会計 松村 澄人 飯泉 尚士

郡市町村	連絡先	事務担当者	へき地担当指導主事
前橋市	前橋市教育委員会	後藤 文博	矢島 貢
渋川市	渋川市教育委員会	野本 泉	
勢多郡	富士見村教育委員会	狩野 聡	
高崎市	高崎市教育委員会	常本 公志	永田 伊知郎
安中市	安中市教育委員会	田嶋 浩之	
上野村	上野村教育委員会	市川 久美夫	
神流町	神流町教育委員会	高橋 静雄	
甘楽郡	西部教育事務所	市川 久幸	小林 克典
吾妻郡	吾妻教育事務所	小渕 淳	
沼田市	沼田市教育委員会	金井 幸光	登坂 一彦
利根郡	利根教育事務所	勅使川原知広	



## IV 平成20年度 群馬県へき地教育研究連盟役員

役員

- ・理事長 黒澤 右京(多野：上野村立上野中)
- ・副理事長 高橋 和幸(高崎：高崎市立倉渕川浦小) 中山 邦男(吾妻：六合村立六合小)  
小林 兵衛(利根：片品村立片品小)
- ・常任理事 茂木 要一(多野：神流町立中里中) 新井 淳司(甘楽：下仁田町立西牧小)  
西脇 進(吾妻：孺恋村立鎌原小) 池田 恵一(沼田：沼田市立利根中)
- ・事務局長 茂木 要一(多野：神流町立中里中)
- ・会計部長 新井 淳司(甘楽：下仁田町立西牧小)
- ・理事

郡市	氏名	勤務校	勤務校所在地(電話番号)	備考
多野 ・ 甘楽 ・ 安中 ・ 高崎 ・ 勢多 ・ 前橋	黒澤 右京	上野村立上野中学校	上野村榑原113 (0274-59-2040)	理事長
	高橋 和幸	高崎市立倉渕川浦小学校	高崎市倉渕町川浦1414-1 (027-378-3215)	副理事長 研究部長
	茂木 要一	神流町立中里中学校	神流町大字神ヶ原422 (0274-58-2517)	常任理事 事務局長
	瀧澤 邦夫	安中市立上後閑小学校	安中市上後閑1305 (027-385-6461)	
	新井 淳司	下仁田町立西牧小学校	下仁田町西野牧4641-1 (0274-84-2232)	常任理事 会計部長
吾妻	中山 邦男	六合村立六合小学校	六合村大字小雨599-1 (0279-95-3571)	副理事長 調査部長
	西脇 進	孺恋村立鎌原小学校	孺恋村大字鎌原1339 (0279-97-3006)	常任理事
	中澤 和則	長野原町立西中学校	長野原町大字応桑1543-310 (0279-85-2249)	

	乾 姫志美	孀恋村立干俣小学校	孀恋村大字干俣1313 (0279-96-0454)	
	小野塚則幸	東吾妻町立坂上小学校	東吾妻町大字本宿401-1 (0279-69-2005)	
利 根 ・ 沼 田 ・ 渋 川	小林 兵衛	片品村立片品小学校	片品村大字鎌田3952 (0278-58-3126)	副理事長 総務部長
	池田 恵一	沼田市立利根中学校	沼田市利根町追貝334 (0278-56-2044)	常任理事
	関谷きみ子	沼田市立利根西小学校	沼田市利根町大原1025 (0278-56-2267)	
	青木美穂子	片品村立片品北小学校	片品村土出1957 (0278-58-7303)	
	原澤 和弥	みなかみ町立幸知小学校	みなかみ町幸知101 (0278-72-3513)	

## V 平成20年度 群馬県へき地教育センター指導員

センター名	氏 名	勤 務 先	勤務校所在地（電話番号）
吾妻東部	綿貫 猛郎	中之条町立中之条小学校内	〒377-0423 中之条町伊勢町1035-1 (0279-75-2130)
吾妻西部	佐々木紀代勝	孀恋村孀恋会館	〒377-1526 孀恋村大字三原691 (0279-97-3004)
利 根	吉澤 博通	利根教育事務所内	〒378-0031 沼田市薄根町4412 (0278-23-0165)

## VI 平成20年度へき地教育功労者

No.	氏名	該当する内規・功績の概要
1	あおき ともこ 青木 とも子 渋川市教育委員会推薦	平成20年3月に渋川市立三原田小学校教諭として退職するまで、利根郡、渋川市内のへき地学校等に12年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
2	かなざわ きよし 金澤 潔 藤岡市教育委員会推薦	平成18年3月に藤岡市立鬼石小学校校長として退職するまで、藤岡市、多野郡内のへき地学校等に、17年にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
3	たけだ たかのぶ 武田 孝信 藤岡市教育委員会推薦	平成15年3月に藤岡市立日野西小学校教諭として退職するまで、藤岡市、多野郡内のへき地学校等に22年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
4	つちや のりこ 土屋 のり子 藤岡市教育委員会推薦	平成18年3月に藤岡市立東中学校学校栄養専門員として退職するまで、神流町内のへき地学校等に15年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
5	さいとう よしひさ 齋藤 義久 神流町教育委員会推薦	平成20年3月に神流町立万場小学校教頭として退職するまで、多野郡内のへき地学校等に28年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
6	きし としあき 岸 俊明 中之条町教育委員会推薦	平成20年3月に中之条町立伊参小学校校長として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校等に16年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
7	とつか くにこ 戸塚 邦子 長野原町教育委員会推薦	平成20年3月に長野原町立北軽井沢小学校校長として退職するまで、吾妻郡のへき地学校等に38年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
8	ひぐち よしかず 樋口 芳一 嬭恋村教育委員会推薦	平成20年3月に嬭恋村立東小学校教諭として退職するまで、吾妻郡のへき地学校等に30年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
9	かんべ はるひさ 神邊 東永 東吾妻町教育委員会推薦	平成20年3月に東吾妻町立東小学校校長として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校等に16年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
10	みやざき てるこ 宮崎 照子 東吾妻町教育委員会推薦	平成20年3月に東吾妻町立太田小学校教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校等に21年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
11	しのはら しげる 篠原 茂 東吾妻町教育委員会推薦	平成20年3月に東吾妻町立岩島小学校教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校等に16年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
12	かつやま まさこ 堪山 優子 みなかみ町教育委員会推薦	平成20年3月にみなかみ町立幸知小学校校長として退職するまで、利根郡内のへき地学校等に16年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。

# あ と が き

群馬県へき地教育資料「板木」第57集の発刊にあたり、ご指導くださいました群馬県教育委員会の先生方をはじめ、ご協力いただきました関係各位に心より感謝申し上げます。

「板木」は、昭和27年に群馬県へき地教育の資料集として第1号が創刊され、以来とぎれることなく刊行されてきました。この間、多くの方々の努力により、群馬県におけるへき地教育の歩みを示すものとして、その価値を確かなものとしております。

近年の群馬県におけるへき地学校を取り巻く状況の変化は大きなものがあります。児童・生徒数の減少はいよいよ進み、学校の統廃合も各地で行われております。へき地教育も新たな課題に直面しているようです。

そのような中で、今年度、第Bブロック（吾妻地区）が編集を担当することとなりました。群馬県へき地教育研究連盟も4ブロックから3ブロックへの編成替えが行われ、へき地学校経営研究会とへき地教育研究大会が1つになるなど事業の見直しがなされました。その中での編集ということで、すべて例年通りとはいきませんでした。難しい課題を抱える中でへき地教育に邁進している多くの方々から、忙しい中にもかかわらず、原稿執筆等ご協力を頂きました。おかげさまで、無事平成20年度の記録を残すことができました。心よりお礼申し上げます。

皆様の協力によりできあがった「板木」第57集。今後のへき地教育推進の資料としてより多くの人に活用されることを願っております。

なお、この第57集の編集に携わったメンバーは、次のとおりです。

## 群馬県教育委員会

矢島 正（義務教育課長）  
鈴木 寛史（義務教育課 指導係長）  
松村 澄人（義務教育課 指導係 指導主事）  
飯泉 尚士（義務教育課 指導係 指導主事）

## 群馬県へき地教育研究連盟

黒澤 右京（県へき連 理事長）  
高橋 和幸（県へき連 副理事長・研究部長）  
小林 兵衛（県へき連 副理事長・総務部長）  
中山 邦男（県へき連 副理事長・板木担当）  
茂木 要一（県へき連 常任理事・事務局長）  
新井 淳司（県へき連 常任理事・会計部長）  
西脇 進（県へき連 常任理事）  
池田 恵一（県へき連 常任理事）  
瀧澤 邦夫（県へき連 理事）  
中澤 和則（県へき連 理事）  
関谷きみ子（県へき連 理事）  
乾 姫志美（県へき連 理事）  
青木美穂子（県へき連 理事）  
小野塚則幸（県へき連 理事）  
原澤 和弥（県へき連 理事）